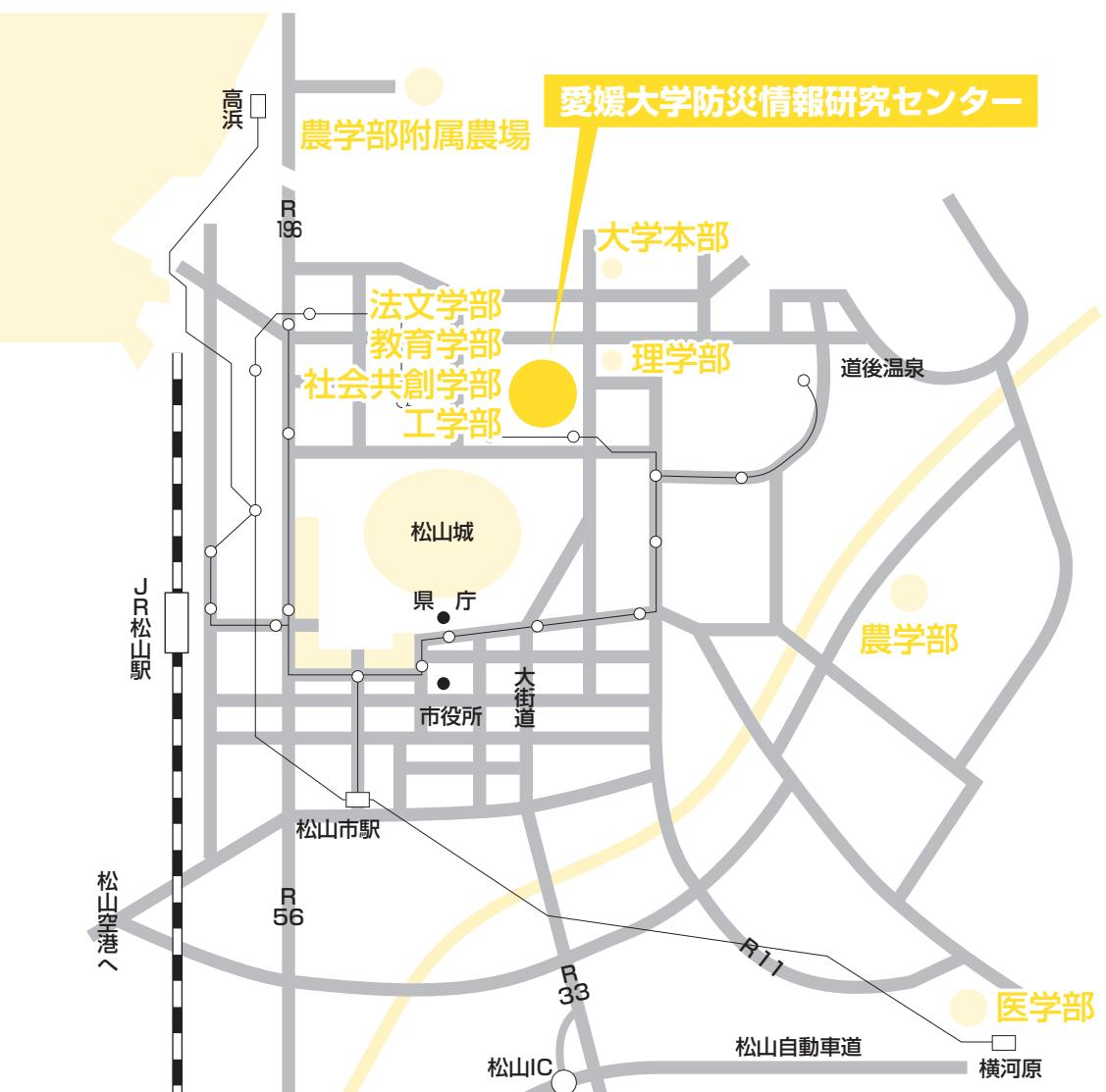


## 愛媛大学案内図



本センターに関する問い合わせ、照会等は下記へご相談ください。

### 愛媛大学防災情報研究センター

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番  
TEL (089)927-8974 FAX (089)927-8820  
E-mail [kensien@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:kensien@stu.ehime-u.ac.jp)  
HP <http://cdmir.jp>

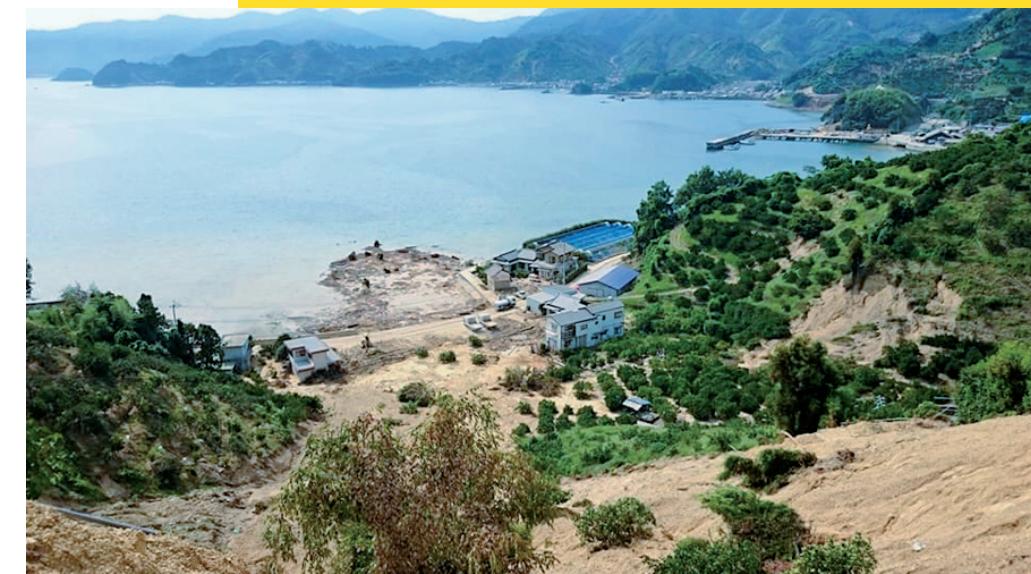
愛媛大学防災情報研究センター報

第13号・平成30年度



# 愛媛大学 防災情報研究センター報

## 第13号・平成30年度



先新浜地区の斜面崩壊状況(源頭部付近より見下ろす)

愛媛大学防災情報研究センター

 **愛媛大学防災情報研究センター**  
Center for Disaster Management Informatics Research, Ehime University



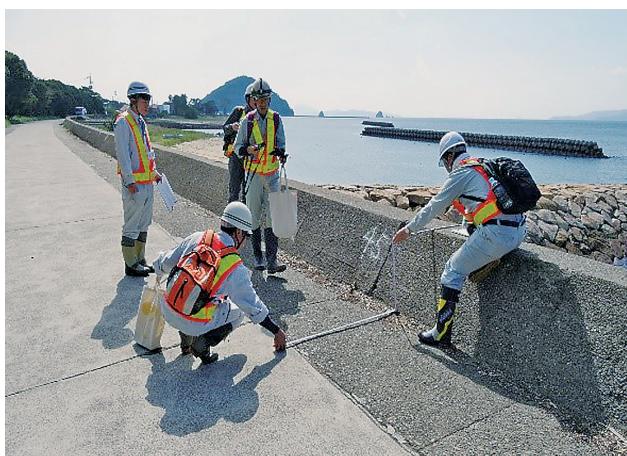
平成29年度活動報告会  
(平成30年5月25日)



第1回豪雨災害調査団速報会  
(平成30年7月11日)



第1回豪雨災害調査団報告会  
(平成30年7月27日)



社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座  
(平成30年8月23日～10月12日 12日間)





防災士養成講座  
（第1回平成30年8月18日～19日  
第3回平成30年10月11日～12日）  
（第2回平成30年8月20日～21日  
第4回平成30年10月13日～14日）



建設業関係シンポジウム  
(平成31年1月11日)



防災連携に関する松山市・東大協定締結式  
(平成31年3月19日)



アーバンデザインスクール  
「夕焼けベンチ」  
(平成30年11月)



アーバンデザインセンター花園町へ移転  
(平成31年1月)

## 序 文

愛媛大学防災情報研究センターが平成 18 年 4 月 1 日に設立されて以来、13 年が経過しました。平成の時代は大きな自然災害が多発しましたが、それを象徴するかのように、平成 30 年度にはとりわけ多くの災害が発生しました。

6 月には大阪府北部地震が発生し、ブロック塀の倒壊によって通学中の児童が犠牲になりました。7 月には西日本豪雨（平成 30 年 7 月豪雨）が発生し、西日本を中心に広範囲で洪水・土砂災害が発生しました。愛媛県では災害による死者が 27 名、災害関連死が 5 名を数えたほか、住家被害は約 6600 戸にのぼりました。愛媛大学では発災直後に全学的な調査団を結成し、防災情報研究センターが事務局となり 57 名の教員が調査に携わりました。その結果は報告書としてまとめ、関係機関に配布するとともに、電子版を当センターのホームページからダウンロードできるようにしています。また 9 月には非常に強い台風が 2 つも上陸しました。特に台風 21 号は大阪湾で高潮を発生させ関西国際空港を水没させたほか、広範囲で暴風被害がもたらしました。9 月 6 日には北海道胆振東部地震が発生し、斜面崩壊や液状化を発生させたほか、北海道全域が停電するブラックアウトが生じさせました。

今後 30 年以内に 70~80% の確率で発生が予測されている南海トラフ地震は、四国に強い地震動と巨大津波を各地にもたらすことが予想されています。防災・減災の対策を推進することは当然のことながら、東日本大震災クラスの津波が押し寄せることを考えると沿岸地域は大きなダメージを受けることが想定されます。被災は完全には避けられないかもしれません、その後の速やかな復興を目指すための取組は事前に準備できるものと思います。当センターでは、東京大学復興デザイン研究体、愛媛県、宇和海沿岸 3 市 2 町と“事前復興”共同研究を平成 30 年度より開始しており、被災後の生活再建や市街地復興等について研究を行っています。この研究の成果が実践され、来る南海トラフ地震への事前復興に確実に活かされるようにする必要があります。

また我々が晒されているのは自然災害だけではありません。経済成長とともに道路を中心とした多くの社会基盤の整備がなされてきましたが、近年これらの構造物の老朽化が深刻な状況となっています。平成 22 年には笹子トンネルの天井板が落下し、走行していた車両が巻き込まれて 9 名の方が犠牲になりました。アメリカのミネアポリス高速道路崩落事故（2007 年）では 13 名の死者・行方不明者がでる惨事となり、2018 年 8 月にはイタリアのモランディ橋が落橋し 43 名の死者がでています。私たちの身の回りにある橋やトンネルでも同様のことが起きる可能性がありますし、道路、上下水道、港湾施設、河川構造物なども同じように老朽化が進んでいます。地震や豪雨などの外力によって構造物が壊れやすくなることも考えられ、そうすると被害が大きくなったり、災害時の支援ルートとして使えなくなったり、その後の復旧・復興を遅らせることになります。当センターでは、インフラ再生を担う人材を育成するために「社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座」を実施しており、技術者の再教育の場を提供しています。平成 25 年度から毎年 20 名を超えるメンテナンスエキスパート技術者を輩出し、その数は 120 名に達しようとしています。

愛媛大学防災情報研究センターでは、予想される様々な災害から住民の生命と財産を守

るために、行政や地域と連携した極めて実践的な防災研究に取り組んでいます。平成 21 年 10 月から平成 26 年 3 月まで四国建設弘済会による「東南海・南海地震研究部門」を、平成 26 年 4 月から松山市(松山市都市再生協議会)による「松山アーバンデザイン研究部門」を設置しました。これらの寄附講座の活動により、愛媛県並びに四国地域の南海トラフ巨大地震への対応や松山市の中心市街地や道後温泉の活性化への取り組みに大いなる成果を上げています。また、防災に関わる人材育成への取り組みとしては以下のようなプログラムを開講しています。まず、それとともに、平成 26 年度から地域防災力向上のリーダーの育成にも組織的に取り組んでおり、松山市消防局と連携した防災士養成講座では、毎年 400 名の防災士を育成しています。また、松山市内 4 大学の学生を対象とした実践的学生防災リーダー育成プログラムでは、平成 27 年度から毎年 200 名の学生防災士を養成しています。平成 31 年 3 月には、当センター、東京大学復興デザイン研究体、松山市の 3 者で防災連携に関する協定を締結し、(1)地域や学校で実践する防災教育プログラムの開発、(2)子どもから高齢者まで切れ目のない防災リーダーの育成、(3) 防災・減災まちづくりの検討に関する調査研究や連携協力をを行う体制を整えています。

さらに、アジア圏の災害調査や防災研究連携にも力を入れてきました。2015 年に発生したネパール・ゴルカ地震の被害調査を精力的に進め、この調査研究推進のために、関係機関・諸氏から多くの賛助寄付金を頂いています。その寄付金によりカトマンズ市に地震復興に向けた学術拠点である「愛媛大学ネパール地震復興デザインセンター」を開設しています。またネパールの防災教育の充実化に向けて継続的に活動を続けています。

以上、見てきたように、日本は大規模自然災害の多発期にあります。そのため、今まで以上に防災への真剣で実践的な取り組みが求められます。愛媛大学防災情報研究センターも地域防災力向上のために更なる活動を展開していきます。本報告書に昨年 1 年間の活動成果をまとめておりますので、本センターの活動の理解を深める一助となれば幸いです。災害に立ち向かうためには、多くの機関や個人の力の結集が必要です。皆様の温かいご支援とご協力をお願いします。

2019 年 5 月 31 日

愛媛大学防災情報研究センター長 森脇 亮

## 愛媛大学防災情報研究センター一年報 目次

### 序文

### 目次

1. 研究組織及び研究スタッフ	1
2. 活動状況	
2.1 活動報告	10
2.2 社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座	15
2.3 南海トラフ地震事前復興共同研究	25
2.4 松山市との連携	29
2.5 アーバンデザイン研究部門	30
2.6 四国防災八十八話研究会	45
2.7 防災情報研究センターニュース（メールマガジン）	46
3. センターが受け入れた研究活動	
3.1 受託研究	47
3.2 受託事業	48
3.3 共同研究	49
3.4 寄附金	49
4. センター教員による研究・地域貢献活動	50
5. 規程等	
5.1 愛媛大学防災情報研究センター規則	77
5.2 愛媛大学防災情報研究センター運営委員会規程	80
5.3 愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程	82
5.4 愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要項	83



## 1 研究組織及び研究スタッフ

センター長、副センター長のもとに、6つの研究部門（災害救急医療・ケア研究部門、地域防災システム研究部門、アジア・地域防災情報ネットワーク部門、アーバンデザイン研究部門、防災・橋梁メンテナンス技術研究部門、インフラ空間情報基盤研究部門）を置く。下記に、平成30年度の研究スタッフを示す。センター長、副センター長の他、センター所属の教員が33名、客員教授・准教授が14名、客員研究員が3名、及びセンター活動を支援していただく協力教員4名で構成されている。

### センター長

氏 名	森脇 亮 [MORIWAKI Ryo]
所 属	大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職	教授
専 門	気象学・水文学
最終学歴	1996.3 東京工業大学工学部土木工学科 卒業

### 副センター長

氏 名	吉井 稔雄 [YOSHII Toshio]
所 属	大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職	教授
専 門	交通工学
最終学歴	1994.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏 名	二神 透 [FUTAGAMI Tohru]
所 属	防災情報研究センター
役 職	准教授
専 門	都市防災計画, 地震火災シミュレータ, 避難シミュレータ, 救急情報工学, 土木計画学, 中山間地防災計画, 住民参加, 合意形成
最終学歴	1990.3 金沢大学大学院自然科学研究科システム科学博士課程 修了

氏 名	バンダリ ネトラ プラカシュ [BHANDARY Netra Prakash]
所 属	社会共創学部
役 職	准教授
専 門	地盤防災
最終学歴	2003.3 愛媛大学大学院理工学研究科生産工学博士後期課程 修了

### <災害救急医療・ケア研究部門>

地域の関係機関との連携を考慮した災害発生時の救急医療・ヘルスケア体制及び搬送支援体制の構築・情報共有に関する調査・研究を行い、心的ケアを含む実践的な災害医療の教材を開発する。

#### 部門長

氏名 相引 真幸 [AIBIKI Mayuki]  
所属 大学院医学系研究科医学専攻  
役職 教授、附属病院副病院長（医療再生・災害危機管理担当）  
専門 救急医学、重症患者管理学  
最終学歴 1978.3 金沢医科大学医学部医学科 卒業

氏名 加藤 匠宏 [KATO Tadahiro]  
所属 大学院教育学研究科学校臨床心理専攻  
役職 准教授  
専門 産業保健領域における人間工学の視点からみた労働安全器具の開発および安全、安心町づくり  
最終学歴 1990.3 広島大学大学院医学系研究科社会医学系博士課程 修了

### <地域防災システム部門>

自然災害発生のメカニズムや対策技術を研究し、発生した災害実態や気象・地質・構築物などの地域特性を調査する。それらの調査・研究を通して得られた知見・知識を蓄積する。

#### 部門長

氏名 二神 透 [FUTAGAMI Tohru]  
所属 防災情報研究センター  
役職 准教授  
専門 都市防災計画、地震火災シミュレータ、避難シミュレータ、救急情報工学、土木計画学、中山間地防災計画、住民参加、合意形成  
最終学歴 1990.3 金沢大学大学院自然科学研究科システム科学博士課程 修了

氏名 吉井 稔雄 [YOSHII Toshio]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 教授  
専門 交通工学  
最終学歴 1994.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏名 氏家 勲 [UJIKE Isao]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 教授  
専門 コンクリート工学  
最終学歴 1981.3 広島大学工学部土木工学課程 修了

氏名 日向 博文 [HINATA Hirofumi]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 教授  
専門 沿岸海洋物理学、海岸工学  
最終学歴 1991.3 東京工業大学理工学研究科土木工学専攻 修了

氏名 小林 範之 [KOBAYASHI Noriyuki]  
所属 農学部生物資源学科  
役職 教授  
専門 地盤工学  
最終学歴 1991.3 京都大学大学院農学研究科農業工学修士課程 修了

氏名 森 伸一郎 [MORI Shinichiro]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 准教授  
専門 地震工学、地震地盤工学、防災工学  
最終学歴 1980.3 京都大学工学部土木工学科 卒業

氏名 都築 伸二 [TSUZUKI Shinji]  
所属 大学院理工学研究科電子情報工学専攻通信システム工学  
役職 准教授  
専門 通信工学  
最終学歴 1985.3 愛媛大学大学院工学研究科修士課程 修了

氏名 門田 章宏 [KADOTA Akihiro]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 准教授  
専門 河川工学  
最終学歴 1997.3 京都大学大学院工学研究科博士課程環境地球工学専攻 単位取得認定退学

#### <アジア・地域防災情報ネットワーク部門>

地域の視点からの防災・災害対応に関する自然科学・人文社会面の教材の開発、災害時のライフラインや医療に関する基盤情報ネットワーク構築に関する調査・研究を行う。その成果を用いて地域の教

育・啓蒙を行い、さらにアジア各地域に重点的に展開する。

#### 部門長

氏名	榎原 正幸 [SAKAKIBARA Masayuki]
所属	社会共創学部
役職	教授
専門	地球環境学、地質学、岩石学、応用地球科学
最終学歴	1987.9 北海道大学大学院理学研究科地質学鉱物学博士後期課程 修了

氏名	岡村 未対 [OKAMURA Mitsu]
所属	大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職	教授
専門	地盤工学
最終学歴	1993.3 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学博士課程 修了

氏名	バンダリ ネトラ プラカシュ [BHANDARY Netra Prakash]
所属	社会共創学部
役職	准教授
専門	地盤防災
最終学歴	2003.3 愛媛大学大学院理工学研究科生産工学博士後期課程 修了

#### <アーバンデザイン研究部門>

公・民・学が連携して、都市デザインとまちづくりに関する調査研究から実践、さらには学習・教育を行い、まちづくりの担い手を育成する。

#### 部門長

氏名	松村 輝彦 [MATSUMURA Nobuhiko]
所属	社会共創学部
役職	教授
専門	地域デザイン
最終学歴	1995.3 大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻博士後期課程 中退

氏名	千代田 憲子 [CHIYODA Noriko]
所属	教育学部
役職	教授
専門	デザイン、パブリックデザイン(街路景観)、テキスタイル造形
最終学歴	2003.3 九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科生活環境専攻博士後期課程 修了

氏名 柳原 卓 [YANAGIHARA Takashi]  
所属 防災情報研究センター  
役職 教授  
専門 まちづくり  
最終学歴 1979.3 山梨大学工学部環境整備工学科 卒業

氏名 羽鳥 剛史 [HATORI Tsuyoshi]  
所属 社会共創学部  
役職 准教授  
専門 社会マネジメント  
最終学歴 2006.3 京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻博士課程 修了

氏名 尾崎 信 [OSAKI Shin]  
所属 防災情報研究センター  
役職 講師  
専門 都市・地域計画, 景観学, まちづくり  
最終学歴 2005.3 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻修士課程 修了

氏名 片岡 由香 [KATAOKA Yuka]  
所属 社会共創学部  
役職 助教  
専門 景観デザイン  
最終学歴 2013.3 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士後期課程 修了

氏名 四戸 秀和 [SHINOHE Hidekazu]  
所属 防災情報研究センター  
役職 助教  
専門 景観デザイン  
最終学歴 2014.3 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻修士課程 修了

#### <防災・橋梁メンテナンス技術研究部門>

橋梁の健全度調査法の開発や橋梁架設などの防災対策技術の開発に取り組み、それらの技術を日本やアジアに広く展開する。

#### 部門長

氏名 矢田部 龍一 [YATABE Ryuichi]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 教授  
専門 地盤工学

最終学歴 1979.3 京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏名 安原 英明 [YASUHARA Hideaki]

所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻

役職 教授

専門 岩盤工学, 地盤工学

最終学歴 2005.10 ペンシルベニア州立大学

Dpt. Energy and Geo-Environmental Engineering

氏名 楠本 雅博 [KUSUMOTO Masahiro]

所属 防災情報研究センター

役職 教授

専門 橋梁工学・メンテナンス工学

最終学歴 1987.3 徳島大学大学院電子工学専攻課程 修了

氏名 田村 弘文 [TAMURA Hirohumi]

所属 防災情報研究センター

役職 教授

専門 土木工学

最終学歴 1977.3 広島大学工学部土木工学科 卒業

氏名 大窪 和明 [OOKUBO Kazuaki]

所属 防災情報研究センター

役職 准教授

専門 土木計画

最終学歴 2009.3 東北大学大学院情報科学研究科博士課程後期 修了

氏名 木下 尚樹 [KINOSHITA Naoki]

所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻

役職 講師

専門 岩盤工学

最終学歴 1990.3 愛媛大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻 修了

#### <インフラ空間情報基盤研究部門>

インフラ管理の高度化や予防保全を進めるために、インフラ空間情報の取得・整理・活用をより効率的・効果的に行うとともに、老朽化や損傷の兆候を把握する新たな手法の開発を目的として研究に取り組む。

**部門長**

氏名 全 邦釤 [CHUN Pang-jol]  
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻  
役職 準教授  
専門 橋梁工学・維持管理工学・構造力学・鋼構造学・画像解析学  
最終学歴 2010.5 Wayne State University, Graduate School, Department of Civil and Environmental Engineering 博士課程 修了

氏名 馬場 務 [BABA Tsutomu]  
所属 防災情報研究センター  
役職 教授  
専門 応用化学  
最終学歴 1983.3 北海道大学大学院工学研究科後期博士課程専攻 修了

氏名 中前 茂之 [NAKAMAE Shigeyuki]  
所属 防災情報研究センター  
役職 教授  
専門 交通計画学・土木政策学・建設マネジメント・防災情報学・北方圏環境政策工学  
最終学歴 2015.3 北海道大学大学院北方圏環境政策工学専攻博士後期課程 修了

氏名 シュクラ エルヴィス アヌープ [SHUKLA Elvis Anup]  
所属 防災情報研究センター  
役職 準教授  
専門 生物環境保全学  
最終学歴 2013.3 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻 修了

**<愛媛県等との共同研究>**

氏名 薬師寺 隆彦 [YAKUSHIZI Takahiko]  
所属 防災情報研究センター  
役職 教授  
専門 防災・危機管理  
最終学歴 1980.3 防衛大学校 卒業

氏名 山本 浩司 [YAMAMOTO Koji]  
所属 防災情報研究センター  
役職 教授  
専門 地盤情報工学  
最終学歴 2006.3 愛媛大学大学院理工学研究科博士課程生産工学専攻 修了

【客員教授】

氏名 越智 元郎 [OCHI Genro]

所属 防災情報研究センター 教授

専門 救急医療、麻酔科

氏名 高橋 治郎 [TAKAHASHI Jiro]

所属 防災情報研究センター 教授

専門 構造地質、防災地質

氏名 羽藤 英二 [HATO Eiji]

所属 東京大学大学院工学研究科 教授

専門 交通工学、都市空間工学、都市交通計画、風景づくり

氏名 鳥居 謙一 [TORII Kenichi]

所属 国立研究開発法人土木研究所 研究調整監

専門 海岸工学、防災工学

氏名 右城 猛 [USHIRO Takeshi]

所属 株式会社第一コンサルタンツ 代表取締役社長

専門 擁壁設計、落石対策

氏名 NEPAL MADHAV KUMAR

所属 ネパール国国会議員

専門 防災行政、環境問題、地球温暖化問題

氏名 TULADHAR GANGALAL

所属 ヒマラヤ保全会 会長

専門 防災教育、ヒマラヤ環境学、開発政治学

氏名 曲田 清維 [MAGATA Kiyotada]

所属 防災情報研究センター

専門 住居学、建築計画、都市計画

氏名 松本 啓治 [MATSUMOTO Keiji]

所属 防災情報研究センター

専門 まちづくり

氏名 西村 正 [NISHIMURA tadashi]

所属 復建調査設計株式会社 経営管理本部 社会デザイン創発センター 理事

専門 まちづくり、社会実験調査

氏名 高峯 総一郎 [TAKAMINE Souichiro]  
所属 国土交通省 都市局まちづくり推進課企画専門官  
専門 まちづくり

氏名 DIXIT AMOD MANI  
所属 Executive Director & general Secretary, National Society For Earthquake Technology-Nepal  
専門 応用地質学

氏名 島村 誠 [SHIMAMURA Makoto]  
所属 株式会社ウェザーニューズ技術顧問  
専門 地盤工学、地震工学

#### 【客員准教授】

氏名 DAHAL KUMAR RANJAN  
所属 ネパール国立トリブバン大学 准教授  
専門 応用地質学, 防災地質学

#### 【客員研究員】

氏名 石飛 直彦  
所属 復建調査設計株式会社 松山支店 技術課長  
専門 まちづくり, 社会実験調査

氏名 泉谷 昇  
所属 NPO 法人いよココロザシ大学 理事長・学長  
専門 まちづくり, 社会実験調査

氏名 浅子 佳英  
所属 タカバンスタジオ  
専門 まちづくり, 社会実験調査

#### 【協力教員】

法文学部: 寺内 浩 (協力分野: 古文書調査, 歴史研究)  
理工学研究科: 小林 真也 (協力分野: 災害時の情報伝達)  
理工学研究科: 井内 國光 (協力分野: 渇水被害, 水資源システム, 地球温暖化, 地盤沈下,  
土壤・地盤・水汚染, 災害発生時の災害調査と情報提供)  
理工学研究科: 倉内 慎也 (協力分野: 防災計画)

## 2. 活動状況

### 2. 1 活動報告

#### 2. 1. 1 報告会

名 称	開催日等	参加 人 数	報告者
島根県西部地震被害調査速報会	H30. 4. 19 (木) (社会連携推進機構研修室)	30	防災情報研究センター 森 伸一郎
平成 29 年度活動報告会	H30. 5. 25 (金) (南加記念ホール)	62	防災情報研究センター 森脇 亮 二神 透 全 邦釤 尾崎 信
特別報告「北海道胆振東部地震」	H30. 11. 12(月) (メディアホール)	66	防災情報研究センター 森 伸一郎 大学院理工学研究科 小野 耕平 防災情報研究センター 中前 茂之

#### 2. 1. 2 講演会・シンポジウム

名 称	開催日等	参加 人 数	講演者
特別講演会「2015 年ネパール地震からの復興」	H30. 4. 25 (水) (校友会館サロン)	約 30	防災情報研究センター ネトラ バンダリ
特別講演会「松山の都市と道路を考える」	H30. 7. 9 (月) (南加記念ホール)	170	西日本高速道路(株)取締役 常務執行役員 前川 秀和 氏
特別講演会「よりよい復興を目指して～行政職員のために～」	H30. 9. 6 (木) (西予市役所)	約 20	兵庫県立大学 室崎 益輝 氏
平成 30 年度防災・日本再生シンポジウム 南海トラフ巨大地震から地域を守る ～防災人材育成と事前復興デザインへの取り組み～	H30. 11. 13 (火) (南加記念ホール)	242	東京大学 羽藤 英二 氏 井本 佐保里 氏 萩原 拓也 氏 熊本大学 円山 琢也 氏
建設業関係シンポジウム 災害発生！その時、何ができるか？	H31. 1. 11 (金) (南加記念ホール)	181	防災情報研究センター 森脇 亮

～建設業の緊急対応と復旧への貢献について～			国土交通省四国地方整備局 企画部緊急災害対策調整官 川崎 光洋 氏 愛媛県土木部技術企画室長 白石 昌史 氏 (一社) 愛媛県建設業協会 常務理事 関谷 慎吾 氏 (株) 沼田建設専務取締役 沼田 真禎 氏 上田建設(株) 代表取締役 大野 彰一 氏 (株) 浅田組代表取締役 浅田 春雄 氏
-----------------------	--	--	---

## 2. 1. 3 平成30年7月豪雨愛媛大学災害調査団関係

### (1) 速報会

回数	開催日	参加人数	内 容	報告者
第1回	H30.7.11(水)	4	大洲市、西予市における被害状況等	防災情報研究センター 森 伸一郎
第2回	H30.8.10(金)	28	愛媛県各地の斜面災害の実態と特徴、及び今後の課題 愛媛県内における災害ボランティア活動の現状と見通し	防災情報研究センター 森 伸一郎 社会共創学部 渡邊 敬逸

### (2) 報告会

回数	開催日等	参加人数	内 容	報告者
第1回	H30.7.27(金) (メディアホール)	約100	河川氾濫・浸水について	教育学部 川瀬 久美子
			斜面災害について	防災情報研究センター ネトラ バンダリ
			交通状況について	防災情報研究センター 吉井 稔雄
第2回	H30.9.18(火) (南加記念ホール)	84	農業被害について(1)	防災情報研究センター 小林 範之
			農業被害について(2)	大学院農学研究科 間々田 理彦

			インフラ被害について	防災情報研究センター 氏家 熊
			文化財保護について	法文学部 胡 光
第3回	H30.11.12(月) (メディアホール)	66	ボランティア活動について(1)	防災情報研究センター 二神 透
			ボランティア活動について(2)	防災情報研究センター 片岡 由香
			災害支援について	社会連携推進機構 前田 真
第4回	H31.2.26(火) (南加記念ホール)	47	ガバナンス(行政)	防災情報研究センター 森脇 亮
			医療活動(1)	防災情報研究センター 越智 元郎(客員教授)
			医療活動(2)	防災情報研究センター 相引 真幸
			ガバナンス(住民行動)	防災情報研究センター 羽鳥 剛史
			観光被害	法文学部 和田 寿博

## 2. 1. 4 平成30年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」

### (1) 日程及びカリキュラム

第1回 8月18日(土)～19日(日)

第2回 8月20日(月)～21日(火)

第3回 10月11日(木)～12日(金)

第4回 10月13日(土)～14日(日)

日程	会場	時限	時間	講義内容	講師
1 日 目	松山市保健所・消防合同庁舎	趣旨説明 ビデオ上	9:15～9:30	オリエンテーション	
		1時限目	9:30～10:30	防災士の役割	松山市消防局 玉井 公
		2時限目	10:40～11:40	近年の自然災害に学ぶ	愛媛大学 矢田部 龍一
		昼食(防災ビデオ上映)			
		3時限目	12:40～13:40	耐震診断と補強	愛媛大学 二神 透

		4時限目	13:50~14:50	都市防災	愛媛大学 二神 透
		5時限目	15:00~16:00	風水害、土砂災害とその対策	愛媛大学 森脇 亮
		6時限目	16:10~17:10	地震のしくみと被害	愛媛大学 高橋 治郎
			17:10~17:20	事務連絡	
2 日 目	松山市保健所・消防合同庁舎	1時限目	9:30~11:40	災害から命を守る救助技術 実技指導	松山市消防局
		2時限目			
		昼 食（防災ビデオ上映）			
		3時限目	12:40~13:40	避難所運営	松 山 市 渡部 恵子
		4時限目	13:50~14:50	地域の防災活動	松山市消防局 芝 大輔
		5時限目	15:00~16:00	地域防災計画と防災マップ	松 山 市 辻田 幸生
		6時限目	16:10~17:10	松山市における災害とその対応	松 山 市 小原 友弘
		—	17:30~18:30	防災士資格取得試験	N P O 法人日本防災士機構が実施する

## (2) 申込・修了者数

		申込者(a)			修了者(b)			差引(b)-(a)		
		愛大	松山市	計	愛大	松山市	計	愛大	松山市	計
第1回	8/18,19	115	44	159	115	44	159	0	0	0
第2回	8/20,21	105	45	150	105	45	150	0	0	0
第3回	10/11,12	103	64	167	99	63	162	▲4	▲1	▲5
第4回	10/13,14	104	43	147	99	40	139	▲5	▲3	▲8
計		427	196	623	418	192	610	▲9	▲4	▲13

(3) 防災士資格取得試験結果

		受験者			合格者		
		愛大	松山市	計	愛大	松山市	計
第1回	8/18,19	115	44	159	115	44	159
第2回	8/20,21	105	45	150	105	45	150
第3回	10/11,12	99(2)	63(4)	162(6)	96(1)	63(2)	159(3)
第4回	10/13,14	99(2)	40	139(2)	97(1)	38	135(1)
計		418(4)	192(4)	610(8)	413(2)	190(2)	603(4)

※( )内の数字は、再試験者数を外数で表している。

## 2. 平成 30 年度社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座

### 1. 実施概要

#### (1) ME 養成講座

受講申込受付： 平成 30 年 7 月 2 日(月)～平成 30 年 7 月 23 日(月)

受付審査： 平成 30 年 7 月 24 日(火) 愛媛大学管理運営委員会（大学委員）

定員 25 人に対して 24 名の申し込み、23 名（行政 11 名、民間 12 名）を選別

受講生： 22 名（行政 10 名、民間 12 名）豪雨災害対応のため 1 名が辞退【p.3-4 参照】

ME 養成講座カリキュラム 【p.5-7 参照】

（愛媛大学履修証明プログラムとして 12 日間の講座と e ラーニング(橋梁関係)の 121.5 時間）

講座期間	科目シリーズ
前半（第 1, 2 日） 8 月 23 日(木)～8 月 24 日(金) (第 2～5 日) 9 月 5 日(水)～9 月 7 日(金) (第 6～7 日) 9 月 10 日(月)～9 月 11 日(火)	インフラマネジメント(1) ①橋梁のメンテナンス ②トンネル、下水道のメンテナンス
後半（第 8～10 日） 10 月 3 日(水)～10 月 5 日(金) (第 11, 12 日) 10 月 11 日(木)～10 月 12 日(金)	③港湾・海岸施設、河川構造物のメンテ ④斜面・擁壁のメンテナンス 地域地盤、維持管理の現状、新技術など インフラマネジメント(2), メンテナンス 技術者倫理、ワークショップ
	①～④はシリーズ特別受講科目（下記）

#### ME 認定試験

筆記試験： 平成 30 年 11 月 7 日(水) 午前 択一問題試験（25 問、試験時間 120 分）  
同上 午後 論文問題試験（2 問、試験時間 180 分）

プレゼンテーション・面接試験： 平成 30 年 11 月 21 日(水)（発表 7 分、質疑 8 分）

※再受験者：A：選択問題試験 1 名（平成 28 年度不合格者）

B：論文問題試験、面接試験 1 名（平成 28 年度不合格者）

#### ME 認定審査と結果

審査会： 平成 30 年 11 月 21 日(水) 17:00～17:45

審査委員： 社会基盤メンテナンスエキスパート運営委員会（愛媛大学 5 名、外部 5 名）

認定試験合格者（四国 ME）： 22 名（うち 1 名は再受験者 B）

不合格者： 2 名（うち 1 名は再受験者 A）

#### 特別受講

シリーズ受講： 受講資格（総合カリキュラムの受講申請資格に同じ）、受講料（有料）

募集（各シリーズ 3 名）、本年度の受講者：橋梁シリーズ 1 名

オープン聴講： 受講資格（制限なし）、受講料（有料）、受講科目（各座学）、募集（各科目 6 名）

本年度の聴講者：延べ 2 名（うち 1 名は ME フォローアップ）

サテライト聴講： 未実施

橋梁実習 1 日受講： 豪雨災害のため八幡浜市での試行を中止

## 四国 ME 認定式（履修証と認定証の授与式）

【p.8 参照】

開催日： 平成 30 年 1 月 11 日（金） 11:30～12:00

場 所： 愛媛大学南加記念ホール

## **(2) 修了生ワークショップ**

【p.8 参照】

開催日： 平成 30 年 1 月 10 日（木） 13:30～18:00， 報告会 11 日（金） 13:00～14:30

場 所： 愛媛大学社会連携推進機構棟 2 階 研修室， 愛媛大学南加記念ホール

参加者： 四国 ME， 岐阜 ME， ME 新潟， 長崎道守および愛媛大学， 岐阜大学， 長崎大学

## **2. 推進協議会等の開催**

6 月 8 日 愛媛 ME の会総会

6 月 20 日 愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会 第 2 回メンテナンス地域推進調査部会

6 月 26 日 愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会（第 1 回）

6 月 26 日 社会基盤メンテナンスエキスパート運営委員会（第 1 回）

11 月 1 日 社会基盤メンテナンスエキスパート運営委員会（第 2 回）

11 月 21 日 社会基盤メンテナンスエキスパート運営委員会（四国 ME 認定試験審査会）

## **3. 次年度以降の有料化**

【p.9 参照】

本年度の運営費（文部化科学省の研究期間が終了）は、「平成 30 年 4 月度 第 9 期地球環境維持活動費助成（一般財団法人 上田記念財団）200 万円」と「学長戦略費 300 万円」より捻出した。

平成 31 年度以降は、それに代わるものとして、受講費用 185,000 円、ME 登録料 3,000 円の有料化を行う。なお、民間企業に対しては受講料の補助手段の一つとして、「専門実践教育訓練訓練給付金、キャリア形成促進助成金（厚生労働大臣指定）」の登録手続きを進めている。

## **4. 受講効果の計測**

【p.10 参照】

昨年度と同様に、「受講前後の実力診断試験」を実施し、育成効果を計測した。これより同程度の受講効果となっていることが把握される。

表 1 「愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会」の参加組織

愛媛大学 防災情報研究センター／理工学研究科環境建設工学コース，国土交通省 四国地方整備局企画部／松山河川国道事務所・愛媛県庁 土木部管理局土木管理課・松山市役所 総務部技術管理課・今治市役所 都市建設部道路課・宇和島市役所 建設部建設課・八幡浜市役所 産業建設部建設課・新居浜市役所 建設部道路課・西条市役所 建設部建設道路課・大洲市役所 建設部建設課・伊予市役所 産業建設部土木管理課・四国中央市役所 建設部建設課・西予市役所 産業建設部建設課・東温市役所 産業建設部建設課・上島町役場 建設課・久万高原町役場 建設課・松前町役場 産業建設部まちづくり課・砥部町役場 建設課・内子町役場 建設デザイン課・伊方町役場 建設課・松野町役場 建設環境課・鬼北町役場 建設課・愛南町役場 建設課・西日本高速道路(株)四国支社・(一社)愛媛県建設業協会・愛媛県土木施工管理技士会・(一社)建設コンサルタント協会四国支部愛媛県部会・(一社)愛媛県測量設計業協会・(一社)全国地質調査業協会連合会 四国地質調査業協会愛媛支部・愛媛県管工事協同組合連合会・(一社)全国特定法面保護協会 四国地方支部 愛媛県事務所・愛媛県法面工事業協同組合・NPO 法人 愛媛県建設技術支援センター・愛媛県技術士会
--

## ■平成 30 年度受講生

### (1) 第 5 期受講生

計 22 名

四国地方整備局（松山河川国道事務所）	1名	
愛媛県	0名	
市町（西条、今治、四国中央、		
東温、伊予、松前）	9名	小計 10 名
民間（旧公団、協会）	0名	
民間（施工系）	4名	
民間（コンサルタント系、調査）	7名	
民間（測量ほか）	1名	小計 12 名

### (2) 第 5 期受講生の専門

※現在の専門○、今後の専門△、赤：現在かつ今後

	橋梁	トンネル	斜面・擁壁	港湾・海岸	河川	下水道	その他	その他 道路	その他 舗装	その他 砂防	その他 水道
現在○	18	7	19	6	12	4	3	2	1	3	1
今後△	29	21	29	13	22	9	3	3	1	3	1
○	△	○		○							
○		○		△							
○		○				△					
	△				○						
○		○					○				
△						△	○			○	
○	△	△		○							
○	△	△				○					
○	○	○					△				
○		○			○		△	○			○
○	○										
○				○							
○					○						
△	△				○						
	○	○	△	△							
○		○			○						
○				○	○						
△		○			△						
○	○					△					
○	△	○	△	○	○	○	○			○	
○						△	○			○	
△	△	○		○		○					
△	△										
△	△										
△	△										
△	△										
△	△										

### (3) 特別受講者

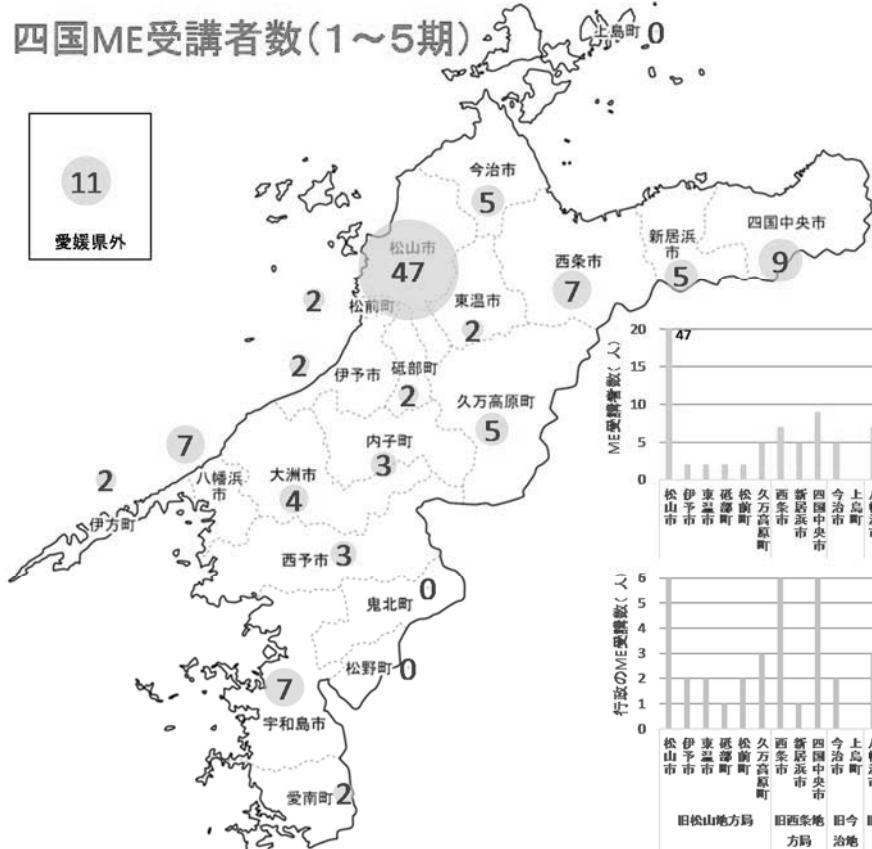
シリーズ受講： 橋梁のメンテナンス（第 3 日～第 5 日） 1名

オープン聴講： ほぼ全体の科目 1名

ME のフォローアップ受講 1名

## 四国ME受講者数(1~5期)

11  
愛媛県外



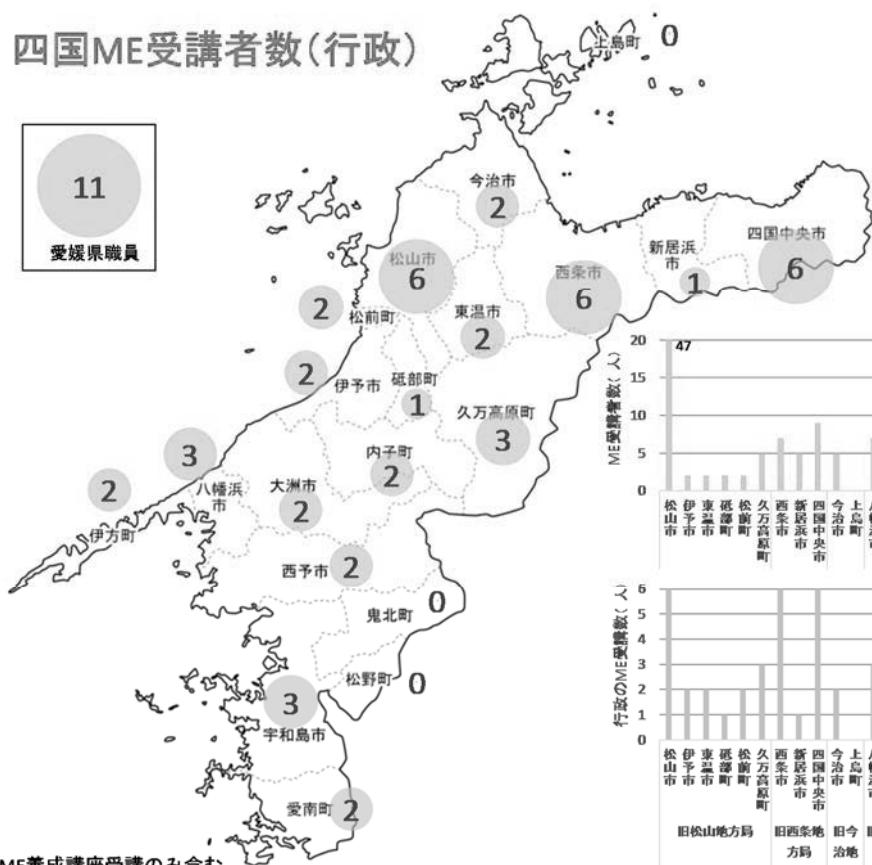
四国ME(所在地)

四国ME(市町所属)

行政府のME受講者数

## 四国ME受講者数(行政)

11  
愛媛県職員



四国ME(所在地)

四国ME(市町所属)

行政府のME受講者数

※ME養成講座受講のみ含む

## ■平成30年度 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座カリキュラム

平成30年度 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座の時間割							紫字…時間割変更 【20180720】
科目枠	開催日	1時限目 (8:30~10:00)	2時限目 (10:20~11:50)	3時限目 (12:40~14:10)	4時限目 (14:30~16:00)	5時限目 (16:20~17:50)	(18:30~20:00)
前半	1 8/23 (木)	【開講式・ガイダンス】 養成講座の概要説明 受講開始時実力診断	社会基盤と維持管理 (総論) 【愛媛大:山本浩司】	劣化モデルと 評価手法 【愛媛大:全邦釘】	劣化モデルと 評価手法〈演習〉 【愛媛大:全邦釘】	グループ事例研究 【岐阜大:熊田素子】	講義、事例研究の レポート作成
	2 8/24 (金)	舗装の設計と 維持管理 【ニチレキ:駒形 望】	道路附帯設備の 点検と補修工法 【NEXCOエンジ四国: 木村正義】	社会基盤のアセットマネジメント 【大阪大:貝戸清之】	グループ事例研究 【愛媛大:森脇・山本】	講義、事例研究の レポート作成	
	3 9/5 (水)	橋梁上部工の 設計と維持管理 (鋼橋) 【首都大東京:村越 潤】	橋梁上部工の 設計と維持管理 (コンクリート橋) 【愛媛大:氏家 黙】	〈実習〉 コンクリートの 耐久性試験 【愛媛大:河合慶有】	橋梁上部工の 設計と維持管理 (床版) 【徳島大:上田隆雄】	橋梁構造物の 下部工の 設計と維持管理 【富士建設O:原田 徹】	講義、事例研究の レポート作成
	4 9/6 (木)	コンクリート橋の 損傷と補修工法 【大日コンサルタント: 牧野 敬】	鋼橋の損傷と対策 【共同技術コンサルタント: 松永昭吾】	橋梁の補修設計 【大日本コンサルタント: 小林 大】	橋梁構造物の 基礎工の 設計と維持管理 【芙蓉O:須賀幸一】	橋梁の耐震補強 【四国建設コンサルタント: 佐伯龍司】	講義、事例研究の レポート作成
	5 9/7 (金)	橋梁の維持管理手法 【愛媛大:森伸一郎】		〈実習、演習〉 橋梁の点検と診断、補修 【愛媛大:森伸一郎, 全邦釘】 【芙蓉コンサルタント:須賀幸一】 【富士建設コンサルタント:原田 徹】 【ME】			講義、事例研究の レポート作成
	6 9/10 (月)	トンネルの設計 【鹿島建設:木村宏】	トンネルの 変形と補修工法 【NEXCOエンジ四国: 古川清司】	下水道の 維持管理 【日本下水道事業団: 長澤不二夫】	〈実習〉 下水道の点検と診断、補修 【松山市】 【日本下水道管路管理業協会】		講義、事例研究の レポート作成
	7 9/11 (火)	トンネルの 点検と診断 【応用地質:太田裕之】		〈実習、演習〉 トンネルの点検と診断、補修 【応用地質:太田裕之】 【四国地方整備局】 【ME】			講義、事例研究の レポート作成
後半	8 10/3 (水)	港湾・海岸施設の 損傷と補修 【東洋建設:末岡英二】	港湾・海岸施設の 維持管理と点検 【八幡浜市:向井光広】 【エイト:大西慎一】	〈実習〉 海岸施設の点検と診断、補修 【愛媛県】 【エイト日本技術開発:大西慎一】	グループ事例研究 【岐阜大:熊田素子】	講義、事例研究の レポート作成	
	9 10/4 (木)	河川構造物の 維持管理 【鹿島建設:嘉田 功】	河川堤防の 損傷と補修 【松山河川国道: 青木 研】	斜面の設計と 維持管理 【一山コン:山下祐一】 【芙蓉コン:須賀幸一】	斜面の設計と 維持管理〈演習〉 【山下祐一】 【須賀幸一】	グループ事例研究 【岐阜大:熊田素子】 【ME】	講義、事例研究の レポート作成
	10 10/5 (金)	擁壁の設計と 維持管理 【第一コンサルタント: 右城 猛】	擁壁の設計と 維持管理〈演習〉 【第一コンサルタント: 右城 猛】	〈実習〉 自然斜面、落石、切土、擁壁の点検と診断、補修 【第一コンサルタント:右城 猛】 【芙蓉コンサルタント:須賀幸一】 【一山コンサルタント:山下祐一】 【ME】			講義、事例研究の レポート作成
	11 10/11 (木)	四国・愛媛県の 地形と地質 【香川大:長谷川修一】	地域の地盤特性と 健全度評価 【愛媛大:山本浩司】	地域の社会基盤と 維持管理の取り組み 【愛媛県:井田光一】	維持管理の 新しいアプローチ (橋梁の簡易点検) 【香川大:岡崎慎一郎】	〈実習〉 詳細点検のための 非破壊検査技術 【SXR:鵜久森瑛一郎】	講義、事例研究の レポート作成
	12 10/12 (金)	ライフサイクルコスト 【岐阜大:杉浦聰志】	リスクマネジメント 【愛媛大:森伸一郎】	メンテナンス 技術者倫理 【岐阜大:八嶋 厚】	社会基盤と維持管理 ワークショップ 【愛媛大:森伸一郎】 【ME】	【閉講式】 今後の技術 向上に向けて	講義、事例研究の レポート作成
自己 学習 (事前)	eラーニング	橋梁工学		コンクリート構造物の損傷		鋼構造物の損傷	
		構造物の補修・補強		共通の損傷		橋の点検要領	
		コンクリート橋の点検		鋼橋の点検		構造物の詳細調査	

### 【内訳】

座学	54.0 時間	36 コマ
演習	7.5 時間	5 コマ
実習	22.5 時間	15 コマ
グループ研究	6.0 時間	4 コマ
レポート作成	18.0 時間	12 コマ
eラーニング	13.5 時間	9 コマ
	121.5 時間	(=1.5時間)

※赤字

H29からの変更

## ■新しい試み

(1) <実習> 橋梁実習における移動梯子の使用 (安全説明)



(2) <実習> 下水道の点検と診断、補修（大学構内での実施）



(3) <実習>詳細点検のための非破壊検査技術



(4) グループ事例研究（ME 取得者のその後の業務等における体験談）



## ■四国 ME 認定式（履修証明・認定証授与）



開会挨拶（森脇センター長）



履修証と ME 認定証の授与



講評と激励の言葉（吉井教授）



ME 認定者

## ■修了生 WS



職業実践力育成プログラム(BP)のうち、専門実践教育訓練として厚生労働大臣の指定を受けた講座は、以下の制度を利用することができます。

職業実践力育成プログラム(BP)のうち、厚生労働大臣が「専門実践教育訓練」として指定したプログラムを活用する場合

社会人のみなさま

～専門実践教育訓練給付金の支給～

在職者又は離職後1年以内(出産・育児等)で対象期間が長くなる場合は最大4年(以降)、専門実践教育訓練を受ける場合に、訓練費用の一定割合を支給します。

また、専門実践教育訓練を受講する45歳未満の離職中に2方以上に於て、基本手当(日額約50%)を訓練費用として支給します(平成30年3月末まで)。

支給の条件  
給付金を受給するためには、雇用保険への加入期間が1年以上(翌回の場合は2年以上)である必要があるります(過去に給付金を受給した場合、その時の受講開始日以前の期間は通算できません)。

給付金の支給  
給付金を受給する場合は、6ヶ月ごとに支給します。

支給の内容  
給付金の40% (上乗年間32万円) を6ヶ月ごとに支給します。

支給の方法  
さらに、医療修了後1年以内に資格取得等し、雇用保険の一般被保険者として使用された又は引き続き使用される場合には、受講費用の20%(上限年間16万円)を追加して支給します。

本性相当地调教牛

文部科学省高等教育局専門教科課  
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-6  
<職業実践力育成プログラム(D)認定制度について>

◎ 原生幼稚園

- ▷ 教育訓練合規制度(指定認証)について
- ▷ 厚生労働省認定力発展キヤリアップ支援基盤  
〒100-0016 東京都千代田区麹町4-2-2  
電話:03-5263-1111(料金:5,390円、33秒)
- ▷ キヤリアップ促進助成金・キヤリアップ助成金について
- ▷ 厚生労働省認定力発展企画の人材育成支援基盤  
〒100-0016 東京都千代田区麹町4-2-2  
電話:03-5263-1111(料金:5,398円、33秒)

社会人の  
スキルアップを  
応援します

文部科学省では大学・大学院・短期大学・高等専門学校における学び直しを推進しています



## **Brush up Program(BP)**

for professional

～職業実践力育成プログラム～



#### 4. 受講前後の実力診断試験（育成効果の計測）

##### メンテナンス基礎力の向上

2017年度（平成29年度）に、新たに受講前後の実力診断試験を実施

- ある老朽化が進む橋梁（実習フィールド）のコンクリート破片を見せ、それより想像されることを次の5項目で問う
- 各問に対し書き出された回答数（5個以上は“もっと書けます”=5）より、受講前後で受講者の基礎力の変化を見る

※試験時間20分



- 問1) 破片より考えられる状態と原因  
問2) 状況を正確に点検診断する手法  
問3) この橋梁の管理上で考えること  
問4) 同様な事態が生じる構造物  
問5) インフラ老朽化問題に取組むべき課題



回答率の変化（上昇）  
回答の質の変化

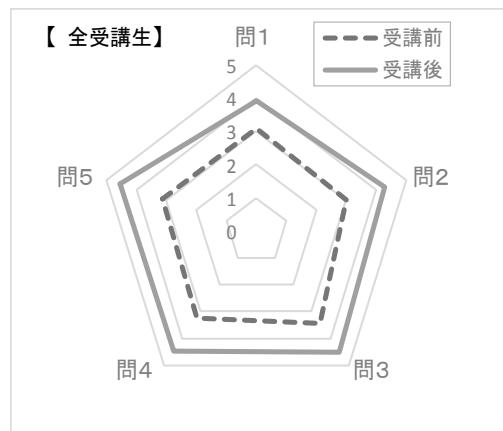
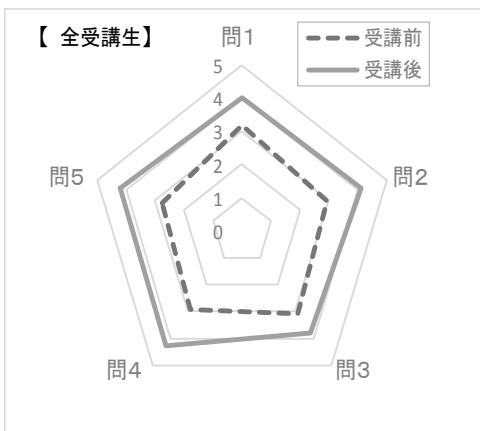
#### H29年度とH30年度の試験結果

H29年度 31名

	問1	問2	問3	問4	問5
受講前	3.2	2.9	3.1	2.9	2.8
受講後	4.0	4.1	3.8	4.3	4.2

H30年度 22名

	問1	問2	問3	問4	問5
受講前	3.1	3.0	3.5	3.2	3.1
受講後	3.9	4.3	4.5	4.5	4.5



## 2. 3 平成 30 年度 南海トラフ地震事前復興共同研究

### 1. 概要

本研究は、今後 30 年内の発生確率が 70~80%に達した「南海トラフ地震」の被害からの迅速な復旧・復興を図り、災害時の社会経済への影響を最小限にとどめるためるために、行政機関および東京大学と共に事前復興デザイン研究に取り組むものである。

対象地域：津波リスクの高い宇和海沿岸地域

研究機関：愛媛県、宇和海沿岸 5 市町（宇和島市、八幡浜市、西予市、伊方町、愛南町）

　　愛媛大学（防災情報研究センター）、東京大学（復興デザイン研究体）

研究費用：年間 4500 万円（各研究機関の当分負担による）

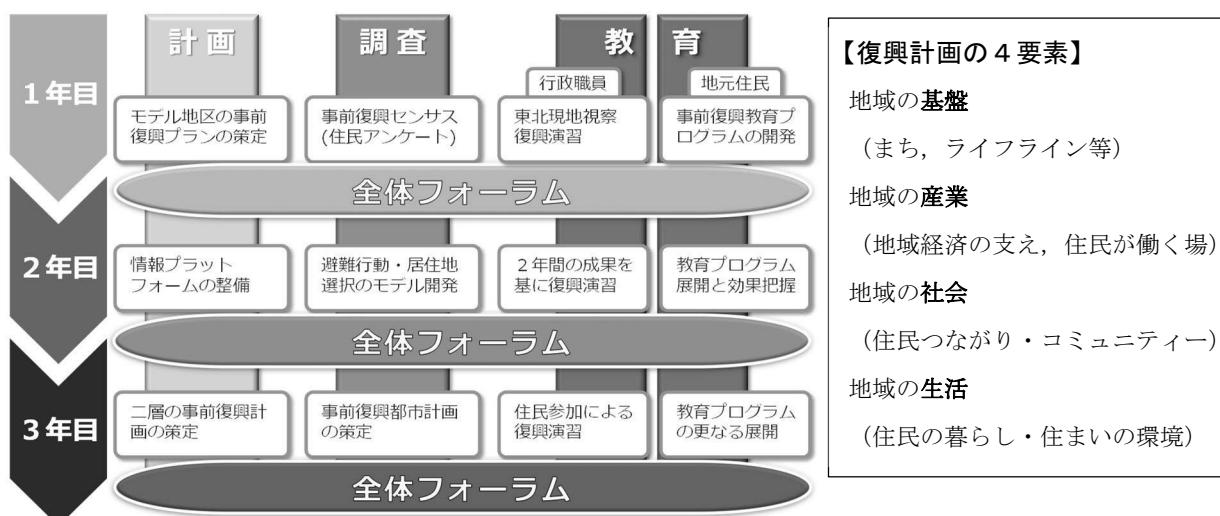
研究期間：平成 30 年度からの 3 年間

研究参加者：防災情報研究センター所属教員および所属を越えた参加（事前説明・意見交換）

### 2. 研究計画

研究の主要スケジュールは、下図のとおりである。復興デザインの 4 要素のために、「計画」、「調査」、「教育」を軸として本研究に取り組む。

#### 【研究の主要スケジュール】



#### 【計画：事前復興デザイン】

二層の事前復興計画の策定



### 3. 平成 30 年度の主な活動

#### (1) 愛媛大学内意見交換会（平成 30 年 3 月）

本研究の開始にあたり、防災情報研究センターより工学部（環境建設工学科、電気電子工学科、情報工学科）、社会共創学部、教育学部の関係教員へ、研究計画の説明と意見交換を行った。

#### (2) 防災拠点の設置（平成 30 年 4 月～）

八幡浜市内に、「宇和海沿岸地域事前復興デザイン研究センター」を設置した。

本研究のため、教員 2 名（教授、研究員）と事務員 1 名が常駐し、各市町との連携にあたる。



#### (3) 「計画」～小さな復興プラン～（平成 30 年 4 月～）

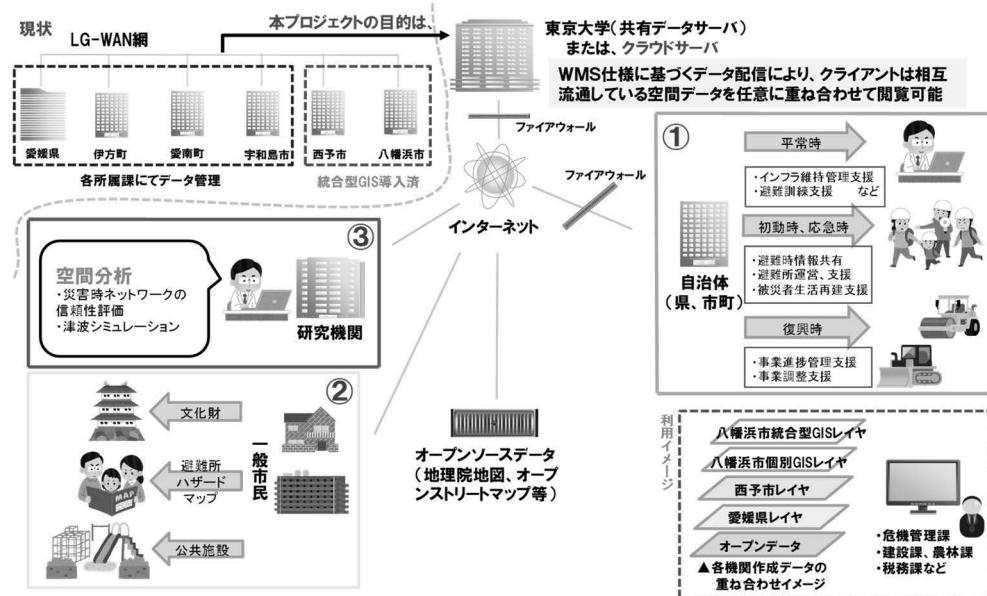
1 年目の活動として“小さな事前復興プラン”の作成を行った。5 市町の代表モデル地区に東京大学（復興デザイン研究体）の大学院生と教員スタッフ 40 名および愛媛大学の大学院生と教員スタッフ 30 名が各モデル地区に入って現地調査を行い、各地区の復興プランを検討・提案した。



#### (4) 「計画」～情報プラットフォーム～（平成 30 年 4 月～）

復興計画の検討や発災以降の各局面に必要とされる多種の情報について、行政機関等の各部署が種々のデータ形式で収集し、行政間でフォーマットの異なるデータ群を統合利用するために、「情報プラットフォーム」の構築を進めた。

##### 情報プラットフォームの構築イメージ



#### (5) 「調査」～事前復興センサス～（平成 30 年 8 月～）

被災者として復興の対象となる地元住民の生活（暮らしと環境）に関する「調査」（情報の収集と分析）を行うために、「事前復興センサス」（住民へのアンケート調査）の実施内容を検討した。

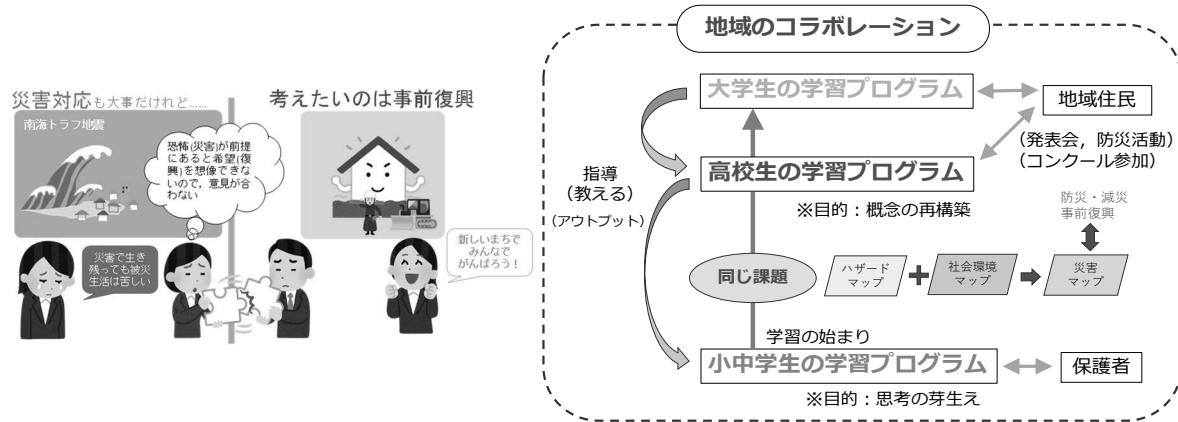
#### (6) 「教育」～行政職員の教育プログラム：東北視察調査～（平成 30 年 10 月～）

事前復興上の課題の認識と施策を遂行するための行政の思考力の熟成を促すための訓練を進めている。1年目は、東北視察を行い、宇和海沿岸における事前復興上の課題を検討した。



## (7) 「教育」～地域住民の教育プログラム：地域構築～（平成 30 年 4 月～）

地域内において、あるいは地域を越えて、若く幼い年代から青年、成人、高齢者までの各年代の住民が繰り返し学ぶ機会を提供する地域構築に取り組んでいる。1 年目は、作品募集や小学校の総合学習内での授業案を提示し、意見収集や試行を行っている



## (8) 事前復興フォーラム（平成 31 年 3 月 23 日）

平成 30 年度のまとめとして、～7 月豪雨災害を教訓に南海トラフ地震の事前復興を考える～をテーマにフォーラム（定員 500 人）を開催する。本年度の研究報告とあわせて、討論～宇和海沿岸地域のトップリーダーと事前復興を考える～を催し、本研究への地域の理解と機運を高める。



## 4. 愛媛大学研究スタッフ（平成 30 年度）

防災情報研究センター（森脇 亮, 全 邦釤, 薬師寺隆彦, 山本浩司, 新宮圭一, 矢田部龍一, 二神 透, 森伸一郎, 大窪 和明）

社会共創学部環境デザイン学科（松村暢彦, 羽鳥剛史, 片岡由香）

教育学部理科教育講座（隅田 学, 大橋淳史）

大学院理工学研究科電子情報工学専攻（二宮 崇, 都築伸二, 高橋 寛, 甲斐 博, 田村晃裕）

事務局：愛媛大学社会連携課社会連携拠点チーム

## 2. 4 平成 30 年度 松山市との連携について

### 1 地域連携職員の受け入れ

#### (1) 目的

平成 30 年 7 月豪雨災害を受け、松山市の防災力向上のため、本センターに松山市の職員 2 名を受け入れ実践力を身につけさせる。

#### (2) 受入期間

平成 30 年 10 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

#### (3) 受け入れ者

①松山市中央消防署消防指令補（主査）

平成 30 年 11 月 1 日より、客員准教授の称号付与

②松山市総合政策部危機管理課主事

### 2 連携協定の締結

#### (1) 目的

連携協力することにより、地域の防災力を高め、共助し、安心して暮らせるまちづくりに寄与する。

#### (2) 内容

①地域や学校で実践する防災教育プログラムの開発に関するここと。

②子どもから高齢者まで切れ目のない防災リーダーの育成に関するここと。

③防災まちづくりの検討に関するここと。

④その他地域防災力を高めるために必要な事項に関するここと。

#### (3) 締結日

平成 31 年 3 月 19 日（火）

### 3 平成 31 年度以降の連携強化について

子どもから高齢者まで切れ目のない防災教育を展開し、実践力を有する防災リーダーを確保・育成するため、「(仮称) 松山防災リーダー育成センター」の設置を検討。

## 2. 5 アーバンデザイン研究部門 事業成果報告

### I UDCMの運営体制について

【UDCMスタッフ名簿】 ①愛媛大学アーバンデザイン研究部門所属 ②コアスタッフ ③スクール運営委員

役職	肩書	氏名	①	②	③
センター長	東京大学大学院工学系研究科 教授	羽藤 英二			
副センター長（統括）	愛媛大学社会共創学部 教授	松村 暉彦	○		○
副センター長	愛媛大学社会共創学部 准教授	羽鳥 剛史	○		○
シニアディレクター	愛媛大学アーバンデザイン研究部門 教授	柳原 卓	○	○	
ディレクター	愛媛大学防災情報研究センター 客員教授	高峯聰一郎	○		
ディレクター	愛媛大学アーバンデザイン研究部門 講師	尾崎 信	○	○	○
ディレクター	愛媛大学アーバンデザイン研究部門 助教	四戸 秀和	○	○	○
ディレクター	愛媛大学社会共創学部 助教	片岡 由香	○		○
ディレクター	愛媛大学アーバンデザイン研究部門 客員教授	西村 正			
ディレクター	愛媛大学アーバンデザイン 客員研究員	浅子 佳英			
ディレクター	愛媛大学防災情報研究センター 客員教授	曲田 清維			
ディレクター	愛媛大学防災情報研究センター 客員教授	松本 啓治			
ディレクター	愛媛大学アーバンデザイン研究部門 研究員	板東ゆかり	○	○	
ディレクター	豊橋技術科学大学 講師	小野 悠			
プロジェクトアドバイザー	愛媛大学教育学部 教授	千代田憲子	○		
プロジェクトアドバイザー	NPO 法人 いよココロザシ大学 主宰	泉谷 昇			
UDスクール運営委員	松山大学経営学部 准教授	河内 俊樹			○
UDスクール運営委員	聖カタリナ大学人間健康福祉学部 助教	斎藤 拓真			○
UDスクール運営委員	愛媛大学社会共創学部 准教授	山中 亮			○
UDスクール運営委員	松山東雲女子大学人文科学部 講師	河原 理			○
客員研究員	復建調査設計(株)松山支店技術課長	石飛 直彦			
事務職員	愛媛大学社会連携課地域創成・防災チーム 事務補佐員	水野 千恵	○	○	

・上記スタッフのほかにもプロジェクトアドバイザー（大学教員等）、研究員（交通計画・都市計画・デザインの専門家、博士課程学生等）等が参加していく予定。

・副センター長を中心として、定期的に運営会議を行い、業務内容のマネジメントを行う。（運営会議には、上記スタッフのほか、市の関係課や関係者等も参加する。）

## II 事業への取組み

### 1. UDCMが主体となって実施する事業

#### 1-1. 松山の都市ビジョンと地域デザインの再構築

##### 【今年度の方針】

本市では現在、様々な都市事業（JR松山駅周辺整備、松山市駅～花園町通りの空間改変事業、L字地区再開発事業、まちなか再活性化、道後温泉地区活性化事業等）が同時並行的に進行中である。まちづくりは、一体的総合的な方針の基に整合を図りつつ進めるべきものであるとの認識の基、これら事業が、全体として、これまで以上に連携し合い、相乗効果を生み出す一体的なものとなるよう、松山全体の都市ビジョンと地域デザインの再構築を進め、提案する。

具体的には、「まつやま 2050 ビジョン」のうち、都市構造・都市空間に関する箇所について精査、検討深化および必要な研究を行う。また、それに基づき、現在進行中の事業に関して適切な助言やデータ提供を行う。

##### 【今年度の成果】

###### (1) ビジョン構築の進め方と体制づくり

松山都市ビジョンの構築のプロセスを、「骨子作成」「専門家協議」「公開議論」の3つのステップに分け検討を行うこととした。2018年7月から開始した関係者へのインタビュー結果及び協議をもとに、2021年3月を松山都市ビジョン策定の目標時期として設定し、約2年にわたる専門家協議の作業フローの整理と協力体制づくりの検討を行なった。

今後は、引き続き「インタビュー」と体制づくりの検討・調整を行うとともに、ビジョン構築の基礎となる都市形成史研究を行う「論文ゼミ」、具体的な空間像の検討を行う「都市デザインスタジオ」を進める他、他の機関（松山市や民間企業等）と連携しながらテーマ毎に協議を行う検討会を実施し、「ワーキンググループ」においてビジョンの構築の取りまとめ作業を都市再生協議会にあわせて段階的に行なっていく。

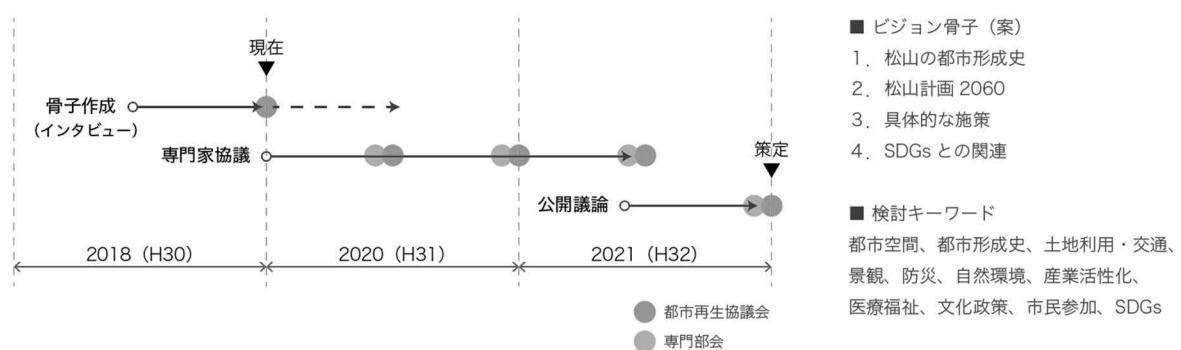
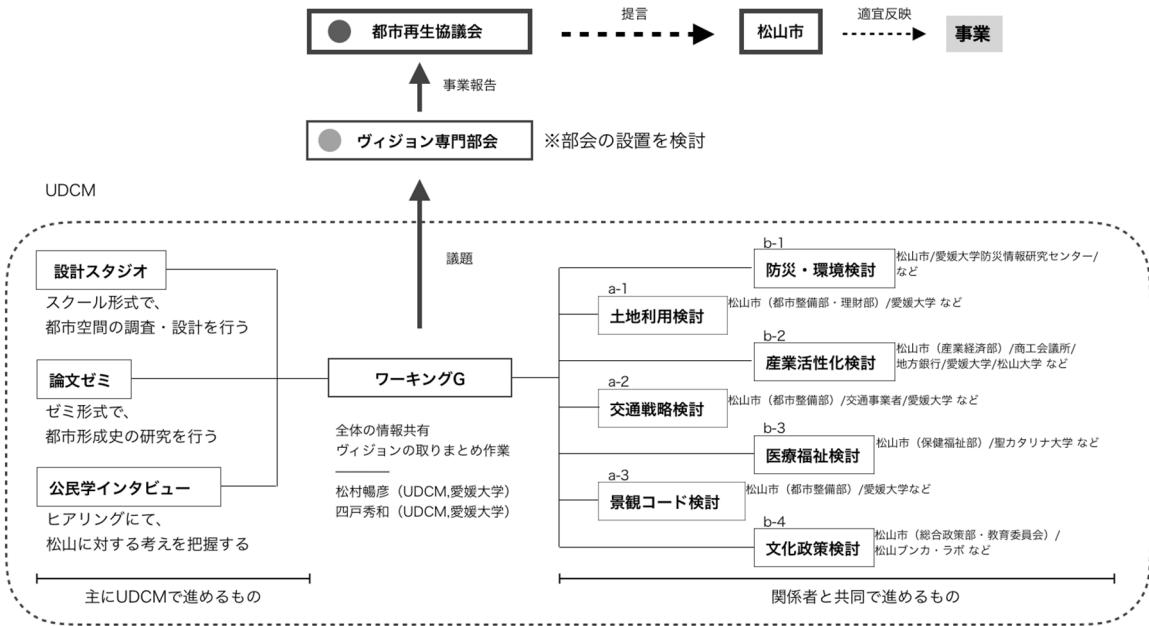


図 ビジョン策定スケジュール（案）及びビジョンの骨子



## (2) 論文ゼミ

2018年12月より論文ゼミを開講した。これから都市整備やまちづくり活動のあり方について議論するため、まずは松山市の郊外拠点の空間構造が耕地整理や住宅地開発その他道路建設等の都市整備によりどのように変容したのかを明らかにすることを目的とした研究を行なっている。引き続き研究を進め、論文化を行う。

## (3) 都市デザインスタジオ

2019年3月より将来の都市空間像を描き出すことを目的としたデザインスタジオを開講した。半年を1タームとして、ビジョン策定まで4回の開催を予定。第1回目となる今回は駅周辺空間の将来像をテーマに、愛媛大学学生10名と松山市の若手職員2名の計12名が集まった。都市空間のリサーチを進め、外部講師を招いたレクチャーを挟みながら参加者のスキルアップを目指し、将来の都市空間像のスタディを進めていく。

### 1-2. アーバンデザインスクールの後方支援

#### 【今年度の方針】

将来のまちづくりの担い手を育成すると共に、まちなかのファンを増やすことを目的として、平成26年11月に開設したまちづくりを実践的に学ぶ市民参加型の学習プログラム“アーバンデザインスクール”的支援を行う。

アーバンデザインスクールの運営は、四大学連携によるアーバンデザインスクール運営委員会を中心に行うこととし、UDCMとしては、スクール生と地域のつなぎ役として、または実践に係る専門的な知見の提供役として、適切なタイミングと内容でのサポートを行う。

平成 30 年度からは、基礎編（5 月 12 日・13 日）と実践編（5 月下旬～12 月）の二段構えの構成へ変更し、習熟度に応じたまちづくり講座となるよう計画している。このような制度改革を積極的に行いつつ、適材適所な運営体制を固め、効率的・効果的な人材育成を戦略的に進める。

### 【今年度の成果】

今期の第 4 期松山アーバンデザインスクールより運営体制を大きく変更した。まず基礎編・実践編を分離開催し、実践活動の密度を落とさずにまちづくりの担い手の裾野を広げるなど、習熟度に応じた講座となるよう工夫をした。また、実践編では四大学連携の持ち味を生かし、それぞれのグループに担当教員がはりつくゼミ形式とした。UDCMスタッフは全体調整や都市整備プロジェクトとのつなぎ、地元キーパーソンとのつなぎ役を行った。

	基礎編	実践編
内容	まちづくりに関する計画論、実践論について専門的知識の提供	まちづくり活動の企画、実践
形式	講義形式＋ワークショップ形式（まち歩き）	ゼミ形式 (チーム毎に担当教員がつく実践形式)
日程/ 期間	5 月 12 日（土）10:00-16:00 5 月 13 日（日）10:00-17:00	5 月～12 月。チームごとの打合せは随時。 月 1 回全チームが集まって活動進捗報告。 12 月 8 日（土）活動報告会 @坂の上の雲ミュージアム
場所	松山大学 H2B 教室、もぶるテラス	もぶるテラス
参加者	1 日目 50 名（社会人 8 名、学生 42 名） 2 日目 52 名（社会人 9 名、学生 43 名）	30 名（社会人 4 名、学生 26 名） →6 チーム結成（下表）

活動名	実践編の活動内容	担当
星空カフェ	若者に向けた癒やしをテーマとした空間の創出。具体的には、城山公園にて、夜間に星を眺めるカフェスペースを設置するイベントを 2 回開催。	中山亮
まつやまアート プロジェクト	テーマは、アートと食の融合。正岡子規の俳句にインスピレーションを得た料理（スープ）を 4 種開発し、試食と投票の会を実施。	松村暢彦
夕焼けベンチ in 宝厳寺	宝厳寺や上人坂界隈の認知度 UP を目指す。宝厳寺に夕日を眺めるためのベンチを設置し茶菓子でもてなし。上人坂を案内するミニツアーを計 6 回実施。3/23 に一遍上人生誕祭にて 7 回目を実施予定。	齋藤拓真
光の展覧会 in 柳井町	近年、リノベーション等により少しずつにぎわいを取り戻しつつある柳井町商店街。通勤・通学の通行者が多い夜の時間帯にも柳井町商店街のあたたかな雰囲気を演出するため、灯りのイベントを実施。	河内俊樹
Washi Sky Project	テーマは、伝統工芸品の普及。大洲和紙に着目し、和紙で花園町通りに仮設の「屋根」をつくるインスタレーションおよび和紙を使った小物づくりのワークショップを計 2 回開催。	羽鳥剛史
松山駅周辺案 内・たべまつぶ	JR 松山駅利用者と周辺のまちをつなぐマップづくり。駅から徒歩圏内のお洒落な飲食店などをマップ化。店主へのインタビューを掲載するなど、駅周辺の魅力再発見を促す紙面として構成。	片岡由香

### 1-3. まちづくり活動の支援

#### 【今年度の方針】

地域の人々がまちづくりに関心を持ち、関与する動機となる事業や文化イベント等の交流活動など、まちづくりを活発化するための事業等については、新しく設立する予定のNPOとの適切な分担を図りつつ、引き続き実施・支援する。

具体的には、「移動する建築」を地元主体で運営していくよう自立を促すために必要な支援を行う。この他には、まちづくりワークショップや子規漱石生誕150年記念ウォークなどのまち歩き、スクールで生まれた活動などが候補となる。新しく設立するNPOが主体となり、これらのまちづくり活動を小さな収益事業として成立させることを、UDCMとして後押しする。その際、持続可能な活動であることが重要であり、運営体制や収支バランスに留意する。

一方、地域住民や学生等からのまちづくりに係る相談等に対し、日常的に技術的支援を行うと共に、まちづくりの現場に参画し、住民や学生、事業者等とともに民間主体のまちづくりについての検討を行う。

#### 【今年度の成果】

##### (1) 移動する建築の地元への移管

昨年度製作した「移動する建築」の運営を地元組織へと移管するためのマネジメントを行った。

##### ① まちを旅する4つの屋台

- ・地元組織による貸し出し運営を念頭において、貸し出しマニュアルを作成した。
- ・月一度行われるお城下マルシェ 花園にて屋台を貸し出している。
- ・その他、みんなのひろばでのイベント等にて不定期に屋台を貸し出している。

##### ② 街の中の雲

- ・道後オンセナート2018地元プロジェクトとして予算を取得し、道後温泉誇れるまちづくり推進協議会や伊予匠ノ会とともに2回の雲揚げを実施した。

	第1回	第2回
日時	8月4日（土）9:30～21:00 8月5日（日）10:00～17:00	2月23日（土）9:00～21:00 2月24日（日）10:00～17:00
会場	道後温泉別館 飛鳥乃湯泉 中庭	
来場者数	約2,000人	約3,000人
ゲスト	バンバタカユキ（街の中の雲デザイナー）、チームM+（舞踊チーム）、椿のおもてなし（木春の体験WS）	
協力	道後温泉誇れるまちづくり推進協議会、伊予匠ノ会 帝人フロンティア株式会社、帝人株式会社	

## (2) 松山アーバンデザインスクール OBOG の活動に対する支援

アーバンデザインスクール OBOG が、スクール卒業後も活動を継続する場合、UDCM では可能な支援を行っている。

今年度は、スクール3期生である「かやまちクラブ」が、味酒地区まちづくり協議会（地域振興部）とともに企画実施の方針を固めたため、その企画検討会議における助言やイベント物品貸与を通じて活動支援を行った。今年度は以下の企画が実施された。

#	日時	企画名	概要
1	5/12	感謝の気持ちを込めてフラワー アレンジメントを贈ろう	母の日が近いこともあり、花屋を巡ってオリジナルのフラワー アレンジメントを製作する企画。
2	7/24	かやまち商店街探検隊！	天神祭りとの同時開催。萱町商店街を舞台としたクイズラリー。
3	11/17	かやまちサンドを作ろう！	食パン屋や八百屋等をめぐってオリジナルのサンドイッチをつくる企画。
4	2/17	オリジナルのおもちを作ろう！	参加者で餅つきをし、八百屋等をめぐって集めた具材でオリジナルのおもちをつくる企画。

## (3) ラジオ音楽ドラマ制作

台湾で「電力の父」と称えられる愛媛県出身の実業家、松木幹一郎の没後80年を記念してラジオドラマ「サイクリングの神様～愛媛・台湾の絆、紡いで～」をFM愛媛と連携して制作した。放送は3月17日19時から1時間番組として予定されている。49名の参加者が4回のワークショップを経て2月23, 24日にFM愛媛で収録された。

## (4) まちづくりに関する日常的な技術支援

NPO 等に対する活動場所の提供や、助言を行うことで、市民によるまちづくり活動の活発化を図っている。

### 1-4. 効果的かつ効率的な情報発信

#### 【今年度の方針】

まちづくりに関する情報が一元的に集まり、魅力的でわかりやすくなるよう、ホームページを充実させるとともに、SNSの活用体制を強化し、UDCMの様々な活動を効果的に発信する。

一方で、現状はラジオや紙媒体なども含めた多くのメディアを通じた情報発信を行っているが、その費用対効果をよく吟味し、効率的な情報発信となるように、必要に応じてUDCMの情報発信媒体として適切なものを絞り込んでいくことも検討する。

## 【今年度の成果】

### (1) ラジオ番組「まち@ラヂ」

FM 愛媛の協力によるラジオ番組「まち@ラヂ」(毎週水曜 11:40-12:55) では、昨年度に引き続き、松山アーバンデザインセンターが関わっているプロジェクトやイベントの紹介、まちづくりの担い手へのインタビュー、街なか情報を発信している。

昨年度末よりディレクターによる直接運営（企画、取材調整、編集等）をやめ、運営を担う市民と協働運営する方針としてきた。今年度を通して市民運営担当者のスキルも上がり、市民運営担当者が中心となった運営体制へとシフトしている。

### (2) まちなかマガジン「もぶる」

UDCM及びまちなかの情報発信、行政情報の発信を行うため、市民による市民のためのフリーペーパー「まちなかマガジン【もぶる】」8, 9, 10 号を発刊した。11 号は 3 月末を予定。発行部数は、10,000 部で松山市役所、支所、公民館、コミセン、コムズ等の市の施設と中央商店街や道後温泉等に置かれている。雑誌作成者は、紙面づくりのプロセスを通じて、参加者相互の交流促進、スキルアップ、文章力の向上、コミュニケーション能力の向上を図っている。

紙面の充実を図ることはもちろん、今年度は UDCM の負担を減らすために、従来からのスポンサーに加え地元銀行や愛媛県自転車新文化推進協会などの支援も新たに受けるなど自立に向けた取り組みを進めている。

### (3) ホームページ、SNS での情報発信

新年度リニューアルにむけてホームページ及びパンフレットの改修作業を行っている。

### (4) メディアミックスによる情報発信

産経新聞のコラム（ミュージアムカフェ）において定期的に寄稿を行ったほか、積極的にプレスリリースを行ったことで各テレビ放送、雑誌、新聞報道において、UDCMの活動が取り上げられた。

## 1-5. まちづくりのために必要となる研究・提案

### 【今年度の方針】

これまでの各種取組により、アーバンデザインに関するノウハウや実績も蓄積している。これを適切に整理・分析・評価し、今後の取組にさらに活用していくという P D C A サイクルは極めて有効かつ必要不可欠である。このような観点から、積極的にまちづくりに関する調査・研究を行う。また、松山という都市の「読み方」について、より積極的に研究を進め、都市ビジョンや都市空間デザインへと活かしていく。それゆえ、基礎データとして街なかの人々の活動・移動状況について、継続的にデータを取得・蓄積し、分析するだけでなく、都市形成史や

社会-空間関係論などの分野へ積極的に取り組む。

また、各大学等の専門家によるアーバンデザイン研究会を実施してきたところであるが、この研究会についても継続して実施する。

さらに、都市ビジョンの具現化を図るに当たって、そのまちづくりを効果的に推進するためには、既存制度の改善等が求められる場合があることから、必要に応じ、新たな制度提案を行う。

## 【今年度の成果】

### (1) アーバンデザイン研究会

当研究会はビジョン構築に位置付けて実施することとし、今後は「都市デザインスタジオ」において、羽藤センター長（3月下旬）をはじめ、他2回の研究会を予定し調整を進めている。

### (2) 研究発表、フォーラム等への参加

日程	名称	開催地	登壇者
2018/5/8	全国エリアマネジメントネットワークシンポジウム クロストーク	広島	尾崎
2018/5/25	防災情報研究センター活動報告会	松山	尾崎
2018/6/9, 10	土木学会土木計画学研究発表会 スペシャルセッション	東京	尾崎
2018/6/23, 24	アーバニスト養成講座	柏	尾崎
2018/10/5	第6回全国まちなか広場研究会 UDCM活動紹介	松山	尾崎
2018/10/5	第6回全国まちなか広場研究会 パネルディスカッション	松山	柳原、尾崎、片岡
2018/10/6	第6回UDC会議 グループディスカッション	松山	羽藤、柳原、尾崎、四戸、板東、片岡、小野
2018/10/23	第1回松山駅周辺景観まちづくりセミナー	松山	尾崎
2018/11/21	第2回松山駅周辺景観まちづくりセミナー	松山	尾崎
2018/11/25	岡山市マチナカギカイ	岡山	尾崎
2019/1/27	第13回まつやま子ども読書フォーラム	松山	板東
2019/2/8	松山市議員勉強会	松山	四戸
2019.3.8	松山商工会議所産業振興委員会	松山	尾崎

## 1-6. 地元の専門家のエンカレッジとネットワーク構築

### 【今年度の方針】

新たなデザイン賞を設立し、松山における創造的な取り組みの拡大および地元専門家とのネットワーク構築を充実させる。

具体的には、「松山ローカルデザインセレクション（仮称）」を設立する。ハードの「空間・施設部門」とソフトの「まちづくり部門」の2部門を隔年で開催し、優れたデザインおよびそれを生み出した個人・団体を顕彰の対象とする。審査員の多くを地元選出とすることでコストを抑えつつ、優れた地元専門家とのネットワークをつくる。

## 【今年度の成果】

UDCM拠点施設の移転があったため、本企画の実施は見合わせた。その代わりに、松山ブンカ・ラボのディレクターとのディスカッションや、拠点施設の竣工イベントや他プロジェクトにて地元写真家に撮影を依頼するなど、身近なところから地元専門家とのネットワーク構築を試みた。その成果を踏まえ、現在、地元専門家の候補選定を実施している。

## 2. UDCMが松山市と連携して実施する事業

### 2-1. 道後温泉活性化基本計画の実現への支援

#### 【今年度の方針】

「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」が平成29年9月に完成した後、中庭の整備、周辺道路の電線類地中化や景観整備が同年12月に完成した。それにあわせて、UDCMでは「椿の湯周辺ファーサード整備事業基本構想」を策定するなど民間建物のファーサード整備を支援してきた。平成30年度は、基本設計、実施設計を行い、商店街のアーケードや民間建物のファーサード整備に取り組む。

また、道後温泉本館の保存修理工事は、平成31年1月以降、準備が整った段階で着手する予定であることから、本館の耐震化及び保存修復工事について、仮設工事の観光資源化および交通規制等について必要な後方支援を行なっていく。

#### 【今年度の成果】

##### (1) 椿の湯周辺ファーサード整備

「椿の湯周辺ファーサード整備基本設計」を行い、椿の湯周辺のファーサード整備を支援してきた。道後温泉ファーサード整備協定運営委員会の発注により商店街のアーケードの垂れ壁改修や民間建物4棟のファーサード整備が完了した。また、整備区域内の民間建物2棟はガイドラインを遵守して自費で整備を行った。

##### (2) 道後温泉本館保存修理工事に伴う交通影響緩和策検討

道後温泉本館保存修理工事期間中に想定している作業スペースの確保に伴う県道の通行制限（片側交互通行など）を前提に、繁忙期や週末などの観光需要に配慮した交通影響緩和策を検討する「道後温泉本館保存修理工事に伴う交通影響緩和策検討等業務委託」を松山市から受託して調査、検討し関係機関等と協議の上、進めている。

### 2-2. 拠点（センター施設）の充実

#### 【今年度の方針】

センター来訪者が松山のまちの将来展望を見る形にすることが重要である。来年度は、センター施設の抜本的な見直しも視野に入れつつ、まちづくりの見える化に努める。また、市民等の交流・まちづくり活動等を活発化することを目的に、まちづくりに関する図書コーナーを充実するなど市民等が親しみを持ち、利用しやすい魅力的な施設配置がなされてきたが今後、さらなる充実を図っていく。

## 【今年度の成果】

### (1) 旧拠点「もぶるテラス」

昨年度同様、テーマに特化したプログラムや商店街回遊イベントへの参画、個人・団体・店舗主催イベントの開催支援などを行った。この他にも、図書コーナーのキーワード表示・分類（まちづくり、暮らし、歴史など）を行い、利用促進を図った。社会実験の活動拠点移転が花園町へ移転することに伴い、もぶるテラスの供用は2018年11月18日で終了。

日程	イベント・プログラム名
2018/5/4	もぶる鉄道部第4回走行会「しこくれっしゃ大集合！一全種集合！JR四国の仲間たちー」
2018/6/1-30	もぶる句会
2018/6/16	リノベーションまちづくりトーク
2018/6/17	もぶる句会～作ってみよう編～
2018/7/31	星空散歩～火星大接近の日～
2018/8/7	夏の自由研究お助け隊～実験編～
2018/8/12	もぶる鉄道部第5回走行会「しこくれっしゃ大集合！一瀬戸大橋開通30周年！瀬戸大橋線の仲間たちー」
2018/8/14-9/15	もぶる鉄道部展示企画
2018/8/20	夏の自由研究お助け隊～工作編～
2018/9/1-9/17	敬老の日！手づくりメッセージカード企画
2018/9/15-10/24	もぶる鉄道部展示企画「南予を走る電車たち」
2018/10/27-31	まちなかでくくハロウイン「こうもりますくをつくろう！」
2018/11/2-3	まつやま文具マルシェ
2018/11/18	クロージングイベント「ありがとう！もぶるテラスおわかれ会」

### (2) 新拠点「もぶるラウンジ」

新拠点「もぶるラウンジ」は2019年1月20日にオープンした。移転後もまちづくりに関する図書の充実化や、現在行われている活動の情報発信を進めている。ラウンジ内に設置されたタッチパネル式の特設モニター「Cityscope（日立東大ラボ提供）」は、松山のまちなかでの人の動き等、各種都市データの可視化、アイディアのプロットや試算が可能であり、情報発信ツールとしての具体的な活用方法を提供者と協議・検討中である。また、通りに面したラウンジの前庭には通行者等の行動観測を目的に、観測機器類を取り付けることが可能な「インテリジェントベンチ（日立東大ラボ提供）」が整備された。今後、ベンチ利用者や付近通行者の行動観測について、提供者と協議を進めていく。

日程	イベント・プログラム名
2018/12/17-2019/1/19	プレオープン・内覧期間
2019/1/20	オープニング・お城下マルシェ企画「こたつ de みかん」
2019/1/20-2/28	オープニング企画展示「まちづくり拠点とリノベーションデザイン」
2019/2/17, 3/17	お城下マルシェ企画「こたつ de みかん」
2019/2/17	もぶるラウンジでも柑橘大作戦

## 2-3. 「みんなのひろば」との連携

### 【今年度の方針】

中心市街地賑わい再生社会実験として、市が「みんなのひろば」を整備し、現在その運営をUDCMが担っている。この広場は、都心の低未利用地を活用して、まちの活性化や賑わい創出、景観形成・環境改善等の一定の実績を納めてきた。

L字地区再開発が軌道に乗りつつある現在、この運営・活用の方針を見直し、より一層再開発後の地区に資するものとして先鋭化させていくことが必要である。その際、パブリックスペースの活用を通じたまちづくりの担い手育成という観点を踏まえた運営方針を検討・推進していく。その際、引き続き専門部会や運営委員会等での助言指導を受け、市や商店街と緊密に連携しながら効果的な活用促進を図っていく。

### 【今年度の成果】

再開発事業で新たなまちなか広場が整備されることを見据え、広場を活用した商店街・周辺店舗との連携企画や、市民が主体となった活動への支援を行い、空間を活用して賑わいをつくり出す担い手育成を進めた。

社会実験の活動拠点移転に伴い、みんなのひろばの供用は2019年1月27日に終了。移転後は、まちなかの公共空間において賑わいを促す自主事業の実施検討や他主体事業への参画を進めている。

日程	イベント・プログラム名
2018/6/23, 7/21	夜市イベント「もぶる屋台」
2018/6/30, 7/14, 7/28	納涼イベント「夏だ！海だ！あ、噴水だ」
2018/10/27-31	まちなかでくくハロウイン「こうもりますくをつくろう！」
2018/11/2-3	まつやま文具マルシェ
2018/11/18	クロージングイベント「ありがとう！もぶるテラスおわかれ会」
2018/11/23	星空散歩 in 道後

## 2-4. デザインマネジメント

### 【今年度の方針】

UDCMは、地域に密着したまちづくりの専門機関として、松山の地域特性を活かした良質な都市空間の形成に向け、市民・行政・民間事業者等の協働・連携を引き続き主導する。

特に、上述の事項のほか、松山市の事業については、UDCMスタッフが都市再生協議会専門部会や関係審議会等に参加しつつ、都市デザイン等に係る助言等を行い、優れた都市空間形成に向けた取り組みを支援する。

### 【今年度の成果】

#### (1) JR松山駅周辺整備事業

市が開催する「松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会」（地権者・テナント・建築士会・大学生・UDSMスクール生で構成）のプログラムデザインおよび運営支援を行なった。今年度は、景観計画に則った駅前将来イメージパースの制作に加えて、勉強会参加者でチームを組んで駅前でのソフト的活動実践を行った。また、全国的に著名な専門家によるセミナーを2回開催し、パネルディスカッションにおいてUDCMも参画した。

#### (2) 松山市駅前交通広場空間改変

松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会鉄軌道検討部会へ委員参加をし、駅前広場のレイアウト検討を行った他、本事業を担当する松山市都市・交通計画課と意見交換を行った。

#### (3) 新拠点「もぶるラウンジ」のデザインマネジメント

ファーサードは、花園町通りのデザインガイドラインに則りつつ、通りに開く設えとした。内部は、まちづくり活動の拠点運用に加え、場所の特性や文化芸術振興（松山ブンカ・ラボ）との連携を強めていくことを想定し、ギャラリーを意識した空間とした。2018年12月竣工。

## 3. UDCMがその他の主体と連携して実施する事業

### 3-1. 魅力あるまちづくりを推進するための調査・検討および実践の支援

#### 【今年度の方針】

道後温泉観光会館の計画・設計に対する支援など、都市デザインマネジメントの観点から特に重要な箇所における専門的な支援を行う。

#### 【今年度の成果】

#### (1) 松山市駅前商店街まちづくり勉強会

松山市駅前商店街の「松山市駅前商店街まちづくり事業」の運営支援を行うと共に、UDCMが主導する勉強会を計6回開催した。商店街理事とともに、歴史、アーケード、溜まり場の作り方、清掃、放置自転車、エリアマネジメントなどについて、調査研究を行なった。

## (2) L字地区再開発

L字地区再開発連絡協議会の理事会や勉強会に出席し、情報共有を図っている。

また、湊町三丁目C街区地区においては、第一種市街地再開発事業について1月28日に都市計画決定され、事業化に向けて大きく前進した。現在、再開発組合の設立に向けて準備を進めている。

## (3) 道後温泉観光会館

これまでに5回の検討委員会を開催し、資金計画や投資採算性、施設内の機能などの検討に加え、放生園と一体的な整備を検討して様々な人が行き交う賑わいのある道後の玄関口にふさわしい建物となるように整備構想の策定を支援した。現在、「道後温泉旅館協同組合」で建設（新築か改築等）費用の捻出のための財源確保の取り組み等を検討している。

## (4) 第6回全国まちなか広場研究会・第6回UDC会議連携開催 in松山・現地見学会（10/5, 6）

今年度は、両会の開催地として企画運営に携わった。5日は、UDCM活動紹介（尾崎）、松山市におけるこれまでの都市整備事業に関することを議論したパネルディスカッション（柳原、尾崎、片岡）を実施した。6日には、5日に紹介した事例対象地を実際に見てもらう現地見学会を企画し、計60名の参加者を対象に市役所職員に協力のもと実施した。

## 3-2. NPO組織の設立と連携

### 【今年度の方針】

UDCMを設立して4年の中に、賑わい社会実験やアーバンデザインスクール、FM愛媛「まち@ラジ」アナウンス部、まちなかマガジン「もぶる」編集部などにおいて、市民や学生等とともに行うまちづくり活動にも一定の蓄積が生じている。

しかし、UDCMが事業主体となる場合、都市再生協議会からの寄附講座における予算編成や、大学としての経理処理の中で活動するため、柔軟な企画立案や収支を伴う事業実施に限界がある。こうしたことから、活動の自由度をより高め、多様な主体の参画を促し資金確保に努め持続的な運営を行うために、新たにNPOを設立し、UDCMと連携協働して活動する。

### 【今年度の成果】

平成31年2月6日に設立総会を開催し現在、会員を募集している。また、4月1日からの活動を目指して必要書類の作成や体制づくりを行っている。

### III その他

#### (1) 受賞

名称	対象	備考
グッドデザイン賞	移動する建築	UDCMはプロデューサー、ディレクター
グッドデザイン賞	道後温泉別館 飛鳥乃湯泉	UDCMはディレクター、デザイナー
グッドデザイン賞	花園町通り	UDCMはディレクター
アジア都市景観賞	松山城の自然・歴史と俳句文化が融合した現代の城下町	
ソトノバ・アワード 2018 プロジェクトデザイン部門賞	松山市花園町通り (道路空間改変)	受賞者（松山市長、松山市、UDCM、花園町西通り商店街振興組合、花園町東通り商店街組合）

#### (2) 委員会等（常勤スタッフのみ記載）

名称	役職	担当
道後温泉活性化懇談会	オブザーバー	柳原・尾崎・四戸
道後温泉活性化懇談会（観光資源化関係）	委員	
道後温泉活性化懇談会（交通関係）	委員	
道後温泉周辺ファーサード整備協定運営委員会	顧問	柳原
道後温泉観光会館再整備検討委員会	委員	柳原
道後温泉観光会館再整備検討委員会	協力委員	尾崎
松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会 鉄軌道検討部会	オブザーバー	尾崎
松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会 公共交通利用促進検討部会	オブザーバー	尾崎
松山市駅前商店街まちづくり事業業務委託プロポーザル	審査員	尾崎
松山駅周辺地区車両基地跡地利用に関する基本計画策定検討業務委託プロポーザル	有識者	尾崎
松山駅周辺景観まちづくりワークショップ運営支援等業務委託プロポーザル	有識者	尾崎
松山駅前広場等整備基本計画検討業務委託プロポーザル	有識者	尾崎
松山市シェアサイクル実証実験事業 選考委員会	外部委員	尾崎
松山駅まち会議 作業部会	学識者	四戸

#### (3) 視察対応

#	日程	視察者
1	2018/4/5（木）	広島大学・田中貴宏教授
2	2018/5/14（月）	八千代エンジニアリング株式会社
3	2018/5/18（金）	東京都市大学・林和眞専任講師
4	2018/5/24（木）	吳市役所
5	2018/6/4（月）	東京大学・羽藤研究室
6	2018/6/14（木）	清水みなとまちづくり公民連携協議会（静岡県、静岡市、その他民間企業等）
7	2018/7/5（木）	宇都宮市役所
8	2018/7/9（月）	墨田区役所
9	2018/9/5（水）	神奈川県議会
10	2018/9/12（水）	うきは市観光協会

11	2018/10/17（水）	人事院
12	2018/10/18（木）	大野城市役所
13	2018/10/19（金）	新潟市役所
14	2018/10/26（金）	愛媛大学地域創成研究センターフォーラム報告者（地域人材の日米交流）
15	2018/10/30（火）	岡山市議
16	2018/10/31（水）	仙台市議
17	2018/11/20（火）	UR リンケージ
18	2018/11/22（木）	札幌駅前通まちづくり株式会社
19	2019/1/16（水）	軽井沢市役所
20	2019/2/18（月）	鳥取県庁
21	2019/3/1（金）	CITE さろん
22	2019/3/1（金）	東京大学 学生
23	2019/3/5（火）	信州大学・佐倉弘祐助教
24	2019/3/8（金）	東京大学・福山祥代特任研究員（羽藤研究室）
25	2019/3/19（火）	柏商工会議所

## 2. 6 四国防災八十八話研究会

愛媛大学防災情報研究センターは、愛南町及び愛南町教育委員会と連携して、四国防災八十八話感想文コンクール表彰式及び作品発表会を、平成31年3月6日に愛南町総合庁舎で開催しました。

厳正な審査の上、小学校の部では最優秀賞1編、優秀賞2編の3編が、中学校の部では最優秀賞1編、優秀賞2編の3編が表彰されました。受賞した児童生徒は、それぞれの作文を、保護者などの多くの参加者を前に堂々と発表しました。この子供たちが地域の将来を担う人材となり、地域防災の柱になってくれる日も近いことと期待されます。

平成30年度の入賞者は下記のとおりです。

最優秀賞	小学校の部	愛南町立城辺小学校	5年	粉川 実姫
	中学校の部	愛南町立内海中学校	3年	大間知 花南
優秀賞	小学校の部	愛南町立一本松小学校	5年	中尾 紫乃
		愛南町立緑小学校	6年	中須賀 光輝
	中学校の部	愛南町立御荘中学校	1年	白石 萌恵
		愛南町立城辺中学校	2年	増田 桃

入賞作品は、(<http://cdmir.jp/download/>)にアップしています。

## 2.7 防災情報研究センターニュース（メールマガジン）

本年度は、33件のメールマガジン配信を行いました。3月末時点の登録者数は、1,067名です。

メールマガジン配信希望の方は、センターHPからお申し込みください。また、バックナンバーもセンターHPで公開しています。

防災情報研究センター ホームページ <http://cdmir.jp/>

発行日	号	タイトル
2018.4. 13	456	<ご案内>防災情報研究センター特別講演会「2015年ネパール地震からの復興」の開催について
2018.4. 17	457	<ご案内>「島根県西部地震被害調査速報会」の開催について(ご案内)
2018.4. 18	458	<ご案内>公開講座「防災士養成講座」の受講者募集について
2018.5. 10	459	<ご案内>防災情報研究センター平成29年度活動報告会の開催について
2018.6. 1	460	<ご案内>防災情報研究センター特別講演会「松山の都市と道路を考える」の開催について
2018.6. 18	461	<ご案内>防災特別講演会「南海トラフ巨大地震への事前復興デザインを考える」の開催について
2018.7. 2	462	<ご案内>平成30年度社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座の開講について
2018.7. 3	463	<ご案内>「大阪府北部地震被害調査報告会」の開催について
2018.7. 4	464	<ご案内>防災リーダー養成講座in愛媛の開催について
2018.7. 11	465	<ご報告>平成30年7月豪雨愛媛大学災害調査団を結成しました
2018.7. 25	466	<ご案内>「第1回愛媛大学災害調査団報告会」の開催について
2018.7. 31	467	<ご案内>愛媛大学社会連携フォーラム2018～愛媛大学における地域専門人材育成とリカレント教育の展開～の開催について
2018.8. 1	468	<ご案内>mitまちなか大学第1回「復興」について考える」の開催について
2018.8. 3	469	<ご案内>平成30年7月豪雨愛媛大学災害調査団の速報会開催について
2018.8. 7	470	<ご案内>「えひめ建設BCP研究会」参加企業の募集について
2018.9. 10	471	<ご案内>「第2回愛媛大学災害調査団報告会」の開催について
2018.10. 19	472	<ご案内>平成30年度防災・日本再生シンポジウム南海トラフ巨大地震から地域を守る～防災人材育成と事前復興デザインへの取り組み～
2018.10. 19	473	<ご案内>松山市内4大学学生防災リーダー平成30年度第一回防災講演会について
2018.10. 30	474	<お知らせ>松山市職員2名が防災情報研究センターに出向してきています
2018.11. 1	475	<ご案内>松山市内4大学学生防災リーダー平成30年度第2回防災講演会の開催について
2018.11. 2	476	<ご案内>「第3回愛媛大学災害調査団報告会」の開催について
2018.11. 30	477	<ご案内>「次世代傾斜監視システムに関する研究会」の開催について
2018.12. 3	478	<ご案内>松山市内4大学学生防災リーダー平成30年度第3回防災講演会の開催について
2018.12. 18	479	<ご案内>建設業関係シンポジウム「災害発生！その時、何ができるか？～建設業の緊急対応と復旧への貢献について～」の開催について
2018.12. 26	480	<ご案内>松山市内4大学学生防災リーダー平成30年度第4回防災講演会の開催について
2018.12. 28	481	<ご案内>大学等連携・社会基盤メンテナンスエキスパート・道守のワークショップを開催！
2019.1. 8	482	<ご報告>愛媛大学防災情報研究センター副センター長ネトラ准教授が会長を務めるネパール地盤工学会主催の国際シンポジウムが開催されました
2019.2. 7	483	<ご案内>松山市内4大学学生防災リーダー平成30年度第5回防災講演会の開催について
2019.2. 12	484	<ご案内>平成30年度事前復興フォーラムを開催します(3月23日(土))
2019.2. 15	485	<ご案内>「第4回愛媛大学災害調査団報告会」の開催について
2019.2. 27	486	<ご案内>「西日本豪雨水害四国地区調査団報告会」の開催について
2019.3. 6	487	<ご案内>「えひめ建設BCP研究会」参加企業の募集について
2019.3. 12	488	<ご案内>松山市内4大学学生防災リーダー平成30年度第6回防災講演会の開催について

### **3. センターが受け入れた研究活動**

#### **3.1 受託研究**

- (1) 地理空間情報と環境情報を活用した災害避難共助支援による減災力向上に関する研究開発

(契約先：四国総合通信局、研究者：二神、契約金額：1,300,000 円)

内容：南海トラフ巨大地震によって生じる地震災害や津波被害に対して、共助・自助による減災力向上することを目的として、地域住民による災害避難計画の立案を支援する。さらにその結果を住民どうしで共有するためのクラウドシステムを開発し、実践する。また、環境および防災教育用教材を充実し、住民によるハザードマップ作りや、まち作りコミュニティ活動等を支援する機能を開発することによって、平時から使えるシステムとする。

- (2) 市町村ニーズに応える革新的な点検支援システムに関する研究開発

(契約先：国土技術政策総合研究所、研究者：全、契約金額：14,500,000 円)

内容：市町村の橋梁点検において課題となっている狭小橋梁の点検に伴う交通規制、および点検時の損傷見落とし等に対して、通行規制を伴なわない近接装置および点検支援システムの開発を行う。

- (3) 戦略的イノベーション創造プログラム

(契約先：科学技術振興機構、研究者：全、契約金額：8,853,000 円)

内容：平成 29 年度は、平成 28 年度に引き続き、近接目視点検の結果を収集し、データベースを構築する。また、愛媛県内で使える物とするため、使いやすい形式のインターフェースと GIS システム連携機能を備える、愛媛大学版アセットメントシステム作成を開始する。データフォーマットについては、高知工科大学の那須教授からアセットマネジメントシステムの情報を得て決定する。加えて、平成 28 年度より行っているインフラメンテナンス新技術勉強会や、フィールド試験見学会を本年度も継続し、SIP で開発されている新技術などの普及活動を行う。実際のインフラ構造物での SIP 新技術の実証実験についても、管理者側と、技術開発者側とのマッチングを通して準備を進めていく。また、愛媛県内の自治体のヒアリングをもとにした地域のニーズの洗い出しについても継続して行う。

- (4) 松山市公共施設劣化調査業務委託

(契約先：松山市、研究者：全、契約金額：15,914,880 円)

内容：今後、公共施設の改修・更新等を計画するに際し、既存建物の状況を把握する資料として建物躯体の劣化調査を行い、計画的かつ適切な工事費の予算化が図られるよう業務を委託するもの。

- (5) 大内宿保存対策調査（再委託）

(契約先：北海道大学、研究者：四戸、契約金額：750,000 円)

内容：本学が下郷町からの委託研究契約を取り交わし『大内宿保存対策調査』を実施するが、当該実施内容のうち一部（周辺調査、環境保全全計画案策定／ワークショップ、報告書作成）について担当をお願いするもの。

(6) 竹富島歴史的景観形成地区保存計画見直しの関する調査委託（再委託）

（契約先：北海道大学、研究者：四戸、契約金額：650,000円）

内容：北海道大学が竹富島と受託研究契約を取り交わし『竹富島歴史的景観形成地区保存計画見直しの関する調査委託』を実施するが、当該調査の一部について担当をお願いする。

(7) 交通事故リスクマネジメント手法の研究開発

（契約先：国土技術政策総合研究所、研究者：吉井、契約金額：25,995,600円）

内容：道路ネットワークの有効活用による安全性向上を目的とし、道路通行時における事故の起こしやすさを定量的に評価・算定する方法を確立した上で、交通事故リスク情報を活用し安全な交通流状態を保つための交通需要マネジメントの方法を提案・実施して、その有効を示す。

(6) (A-STEP) 研究成果最適展開支援プログラム

（契約先：科学技術振興機構、研究者：全、契約金額：282,000円）

内容：AIによる航空写真からの斜面崩壊位置検出および崩壊量評価手法の構築

### 3.2 受託事業

(1) 松山市中心市街地賑わい再生社会実験業務委託

（契約先：松山市、研究者：柳原、契約金額：12,953,520円）

内容：中心市街地の低未利用地を転用し、整備を行ったまちなか交流施設にて、地元商店街等との連携によるまちなかの回遊性を高めるプログラムや、民間等との連携による持続可能な維持管理・運営のしくみを試行することによって、まちの活性化および賑わい再生に向けた効果的な仕組みを検証するとともに、今後の中心市街地における居住環境改善等についての検証・検討を行う。

(2) 花園町通り賑わい交流拠点施設設計共同事業業務委託

（契約先：松山市、研究者：柳原、契約金額：2,756,160円）

内容：リニューアルした花園町通りのソフト面での活用や今後のまちづくり機運醸成を図ることを目的に整備する賑わい交流拠点について、市民が愛着をもちより多くの方に利用してもらえる交流拠点となるよう、本市における花園町通り整備に関する経緯等を踏まえ、花園町通りに馴染む空間デザイン設計を行う。

(3) 道後温泉本館保存修理工事伴う交通影響緩和対策検討等業務委託

（契約先：松山市、研究者：柳原、契約金額：6,264,000円）

内容：平成 28 年度「都市におけるみどりを活用した防災・減災対策推進等調査」で実施した火災延焼シミュレーション手法をベースとしつつ、より実態に即したものとなるよう、建築物の耐火性能を加味したシミュレーションへの改良や自治体において当該手法を活用できるようシミュレーションシステムの操作性能の改良作業を行う。

### 3.3 共同研究

#### (1) 南海トラフ地震事前復興共同研究

(契約先：愛媛県・宇和島市・八幡浜市・西予市・伊方町・愛南町、  
研究者：森脇、契約金額：45,000,000 円)

内容：災害リスク情報プラットフォームの構築、行政職員向けの事前復興に向けた図上訓練、住民向けの事前復興センサスと模擬避難訓練の実施、避難マニュアルの作成、事前復興計画策定指針の作成及び防災フォーラムの開催その他宇和海沿岸地域における南海トラフ地震被害からの事前復興のために必要な研究を行う。

#### (2) 交通交流論と AI 学習による非日常の発見とアラート発信

(契約先：東北大学、研究者：吉井、契約金額：3,627,450 円)

内容：移動体データ（プローブ、ドラレコ等）と気象、地形データを交通流理論と AI 学習により融合分析して①災害時の道路損傷、冠水、積雪、Gridlock などの非日常、および観光地やイベント時の渋滞等の非日常をリアルタイムに発見する方法、②非日常（通行障害や土砂災害）の発生を事前アラートする手法を開発することを目的とする。

### 3.4 寄附金

#### (1) 寄附講座アーバンデザイン研究部門

(契約先：松山市都市再生協議会、金額：30,000,000 円)

設置期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

#### (2) 防災・橋梁メンテナンス技術研究部門

(契約先：第一コンサルタンツ、金額：17,000,000 円)

設置期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

#### (3) インフラ空間情報基盤研究部門

(契約先：株式会社カナン・ジオリサーチ、金額：10,000,000 円)

設置期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

#### (4) その他

愛媛県建設技術支援センター

## 4. センター教員による研究・地域貢献活動

### 【森脇 亮】

社会貢献活動：

1. 2018.5.31 「再生可能エネルギーの総合的な活用推進」、地域活性化フォーラム、八幡浜市
2. 2018.10.9 「行政・住民が連携した 実践的な防災力向上の必要性～平成30年7月豪雨災害の教訓～」、愛媛県市議会議場会講演
3. 2018.10.19 「多発する自然災害から学ぶべきこと～防災教育の重要性～」、平成30年度愛媛県立学校長研究協議会講演
4. 2018.10.24 「7月豪雨の状況及び避難の課題」、愛南町久良地区避難訓練講演
5. 2018.10.26 「松山平野の地下水利用と水循環の特徴」、地下水学会秋季講演会 松山市子規記念博物館 講堂
6. 2018.11.13 「愛媛における平成30年7月豪雨災害と復興」、平成30年度防災・日本再生シンポジウム、愛媛大学
7. 2018.12.11 「災害対応の心構え～平成30年7月豪雨災害を受けて～」、7月豪雨災害を受けての職員研修 松山市
8. "2019.1.11 「7月豪雨による被災状況」、建設業関係シンポジウム災害発生！その時、何ができるか？～建設業の緊急対策と復旧への貢献について～、愛媛大学"
9. 2019.2.8 「平成30年7月豪雨について」、四国地区マスコミ倫理懇談会、愛媛新聞社
10. 2019.2.9 「愛媛大学防災情報研究センターの取組および西日本豪雨について」、愛媛大学COC 公開講座 in 新居浜市
11. 2019.2.24 「平成30年7月豪雨をうけて」、平成30年度 松山市自主防災ネットワーク会議分科会、松山市
12. 重信川流域学識者会議委員
13. 肱川流域学識者会議委員
14. ダム管理フォローアップ委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
15. 堤防決壊に係る調査委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
16. 四国の港湾における地震・津波対策検討会議委員（国土交通省四国地方整備局）
17. 四国広域緊急時海上輸送等検討ワーキンググループ委員（国土交通省四国地方整備局）
18. 山鳥坂ダム・鹿野川ダム環境検討委員会委員
19. 山鳥坂ダム工事事務所ダム事業費等監理委員会委員
20. リバーカウンセラー（国土交通省四国地方整備局）
21. 河川・溪流環境アドバイザー（国土交通省四国地方整備局）
22. 四国地方整備局総合評価委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
23. 四国地方整備局総合評価地域小委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
24. 愛媛県防災会議委員
25. 愛媛県学校防災アドバイザー
26. 愛媛県建設工事総合評価審査委員（愛媛県）

27. 愛媛県廃棄物処理施設設置審査委員会委員
28. 松山市総合評価審査員（松山市）
29. 松山市公営企業局総合評価審査員（松山市）
30. 「環境モデル都市まつやま」推進協議会運営委員会：委員長（松山市）
31. 八幡浜市港湾審議会委員
32. 八幡浜市地域エネルギー・ビジョン策定委員会委員長
33. 愛南町防災教育連携協力協議会委員
34. 愛南町防災教育推進懇談会委員
35. 「野村ダム・鹿野川ダムの操作に関する情報提供等に関する検証等の場」委員（国土交通省四国地方整備局）
36. 異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能に関する検討会委員（国土交通省水管理・国土保全局）
37. 平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ委員（中央防災会議（内閣府防災担当））
38. 警戒避難体制強化のための土砂災害対策検討委員会会長（愛媛県砂防課）
39. 平成30年7月豪雨災害対応検証委員会委員（愛媛県防災危機管理課）

論文・研究発表：

1. 藤森祥文,田中淳也,伊藤寛幸,森脇亮:平成29年九州北部豪雨を対象とした降雨流出シミュレーション:平成30年度土木学会四国支部第24回技術研究発表:徳島大学:2018.05.19
2. 森脇亮,新尚樹,藤森祥文:LESによる都市及び植生キャノピーフローレに関する研究:平成30年度土木学会四国支部第24回技術研究発表:徳島大学:2018.05.19
3. 山本浩司,森伸一郎,森脇亮,吉井稔雄,全邦釘:社会基盤ME養成のためのカリキュラム構成とワークショップ:平成30年度土木学会四国支部第24回技術研究発表:徳島大学:2018.05.19

## 【吉井 稔雄】

社会貢献活動：

1. 交通事故リスクを活用した交通マネジメント, 北海道開発局道路部門勉強会, 札幌, 2018.6.15
2. 交通事故リスク活用した交通マネジメント, 首都高速道路勉強会, 東京, 2018.8.31
3. 交通事故リスクを活用した交通マネジメント, これからの北海道における道路交通安全, 北海道大学, 2018.11.14
4. 事故リスクとエリア交通マネジメント, 大分県警, 2019.1.29
5. 安全性向上に向けた自転車のマナー, 自転車交通マナーアップ会議, 愛媛県生涯学習センター, 2019.2.16
6. 愛媛県 都市計画審議会 会長
7. 松山市 都市計画審議会 会長
8. 阪神高速道路株式会社 交通技術委員会 幹事
9. 株式会社 高速道路総合技術研究所 高速道路ネットワークシミュレーションモデルの構築検討委員会 委員

10. 愛媛県 愛媛県自転車安全利用研究協議会 構成員
11. 松山市都市再生協議会 委員
12. 愛媛県公共事業評価委員会 委員
13. 松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会 副会長
14. 愛媛県道路交通環境安全推進アドバイザーミーティング 委員
15. 新居浜市立地適正化計画策定委員会 委員長
16. 愛媛県高規格道路等利活用検討会 委員長
17. 松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会 委員
18. 松山空港アクセス向上検討会 委員/幹事長
19. 愛媛県開発審査会 会長
20. 愛媛県渋滞対策協議会 議員
21. 四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ, 委員

論文・研究発表 :

1. 坪田隆宏, 吉井稔雄, Jian Xing : 交通流状態と幾何構造を考慮した都市間高速道路の事故発生リスク分析, 交通工学論文集, 5巻, 2号 (特集号 A) pp. A\_199-A\_207, 2019
2. 坪田隆宏, 吉井稔雄, 倉内慎也, 山本篤志 : ETC2.0 データを活用した生活道路の交通事故リスク要因分析, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), 74巻, 5号, pp. I\_1029-I\_1035, 2019
3. 坪田隆宏, 吉井稔雄, 白柳洋俊, 小倉晃一 : 長時間連續運転車両が事故発生リスクに与える影響分析, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), 74巻, 5号, pp. I\_1275-I\_1282, 2019
4. 坪田隆宏, 吉井稔雄, 白柳洋俊, 藤井浩史 : Bluetooth 検知技術を活用した交通量推定, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), 74巻, 5号, pp. I\_1283-I\_1289, 2019
5. 西真宏, 倉内慎也, 吉井稔雄, 坪田隆宏 : 統合型需要モデルを用いた高速道路整備に伴う利用者便益の計測, 交通工学論文集, Vol.5, No. 2, pp.A\_293-A\_302, 2019.
6. 倉内慎也, 大山貴志, 吉井稔雄, 白柳洋俊 : 事故率と重大事故率の知覚状況とその高速道路利用意識への影響分析, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.74, No.5, pp.I\_871-I\_878, 2018.
7. 坪田隆宏, 吉井稔雄, 倉内慎也, 山本篤志 : ETC2.0 データを活用した生活道路の交通事故リスク要因分析, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.74, No.5, pp.I\_1029-I\_1035, 2018.
8. 西内裕晶, 吉井稔雄, 倉内慎也, 大藤武彦, 市川暢之 : 新潟都市圏道路網における交通事故発生リスク統合データベースの構築と情報提供によるドライバーの経路選択行動の分析, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.74, No.5, pp.I\_1419-I\_1428, 2018.
9. Sarif, Kurauchi, S., Yoshii, T.: An analysis of traveler's evaluation frame toward public transport focusing on dynamic nature of reference point, International Journal on Advanced Science, Engineering and Information Technology, Vol. 8, No. 1, pp. 205-211, 2018. (DOI:10.18517/ijaseit.8.1.4162)

10. Hirotoshi SHIRAYANAGI, Toshio YOSHII, Satoshi HYODO : An analysis of attentional disengagement effect on driver's cognition of road gradient at sag sections, Transportation Research Procedia, Vol.34, pp.44-50, 2018.
11. Takahiro Tsubota, Toshio Yoshii, Hirotoshi Shirayanagi and Shinya Kurauchi Effect of Pavement Conditions on Accident Risk in Rural Expressways The 21st IEEE International Conference on Intelligent Transportation Systems (IEEE ITSC 2018), 2018年11月
12. Takahiro Tsubota, Celso Fernando, Toshio Yoshii and Hirotoshi Shirayanagi Effect of Road Pavement Ages on Traffic Accident Risks Transportation Research Procedia, Vol.34, pp.211-218, 2018.
13. 坪田隆宏, 吉井稔雄, 白柳洋俊, 倉内慎也:高速道路における舗装路面性状を考慮した交通事故リスク分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM), Vol. 57, 2018
14. Celso Fernando, 吉井稔雄, 坪田隆宏, 白柳洋俊:An analysis of the effect of road pavement materials and their ages on the accident risk on Hanshin Expressway, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM), Vol. 57, 2018
15. 岡田洋晃, 吉井稔雄, 坪田隆宏, 白柳洋俊:交差点における事故リスク推定モデルの構築
16. 土木計画学研究・講演集(CD-ROM), Vol. 57, 2018
17. 小川晃一, 吉井稔雄, 坪田隆宏, 白柳洋俊:生活道路単路部における事故リスク推定モデルの構築, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM), Vol. 57, 2018
18. 倉内慎也, 小川晃平, 吉井稔雄, 白柳洋俊:高速道路における事故に対する認知バイアスの分析とその解消法の検討, 土木計画学研究・講演集, Vol.57 (CD-ROM) , 2018.
19. Hirotoshi SHIRAYANAGI, Toshio YOSHII, Satoshi HYODO : An analysis of attentional disengagement effect on driver's cognition of road gradient at sag sections, The International Symposium of Transport Simulation & International Workshop on Traffic Data and its Standardization 2018 (ISTS & IWTDCS 2018) , Ehime, Aug., 2018.
20. 大田菜央, 白柳洋俊, 倉内慎也, 坪田隆宏, 吉井稔雄:まちなか回遊時の記憶痕跡が主観的時間の歪みに与える影響, 第 57 回土木計画学研究発表会 (土木計画学研究・講演集 (CD-ROM) ,Vol.57) , 東京, 2018年6月.

## 【二神 透】

社会貢献活動 :

1. 2018. 5. 24 : 防災ワークショップ : 愛媛県立西条高等学校 : 西条高校体育館 : 280 名
2. 2018. 6.10 : 新居浜市防災士ネットワーク第 1 回研修 : 新居浜市防災安全課 : 新居浜市ウィメンズプラザ : 70 名
3. 2018.8. 6 : 「丹原東中校区の防災について」: 西条市立丹原東中学校 : 丹原福祉センター : 60 名
4. 2018. 8. 11 : 消防学校地域防災リーダー養成講座 : 愛媛県消防学校 : 消防学校:40 名
5. 2018.10. 11 : 「大規模災害時の取り組みについて」: 国立大洲青少年交流の家 : 青少年交流の家 :

50名

6. 2018.10. 11 : 「南海トラフ巨大地震への備え～かけがえのない命を守るために～」余土地区まちづくり協議会：余土小学校：200名
7. 2018.11. 12 : 防災「地震・土砂災害対策」：愛媛県消防学校：消防学校：30名
8. 2018.11. 24 : 防災士養成講座：愛媛県県民防災局防災危機管理課：南予地方局：100名
9. 2018.12. 8 : 「楽しく防災を学ぼう！」：松山市福祉協議会：松山市総合福祉センター：30名
10. 2018.12. 8 : 「東南海地震に対する備え」：愛媛県診療放射線技師会：愛媛大学医学部附属病院：60名
11. 2018.12. 14 : 「愛媛県で起こりうる災害への備え」：防災管理担当者研修会：愛媛県教育委員会：愛媛県歴史文化博物館：200名
12. 2018.12. 16 : 「愛南町で起こりうる災害への備え」：愛南町：愛南町御荘文化センター：25名
13. 2018.12. 21 : 「南海トラフ巨大地震への備え」：愛媛県高等学校教育研究会：松山西中等教育学校：150名
14. 2019.1. 9 : 「愛媛県で起こりうる災害への備え」：防災管理担当者研修会：愛媛県教育委員会：愛媛県歴史文化博物館：200名
15. 2019.1. 10 : 「愛媛県で起こりうる災害への備え」：防災管理担当者研修会：愛媛県教育委員会：愛媛県歴史文化博物館：200名
16. 2019.1. 13 : 防災士養成講座：愛媛県県民防災局防災危機管理課：南予地方局：50名
17. 2019.2. 5 : 防災士養成講座：愛媛県県民防災局防災危機管理課：県庁第二別館：100名
18. 2019.2. 14 : 「福祉施設等の防災」：愛媛県知的障害者福祉協会：東京第一ホテル松山：100名
19. 2019.2. 25 : 「久万高原で起こりうる災害に備えて」：久万高原町総務課危機管理室：60名
20. 2019.3. 2 : 「防災って何だろう」：国立大洲青少年交流の家：大洲青少年交流の家：70名
21. 上島町防災会議委員
22. 災害に強いまちづくり検討会委員
23. 学校防災アドバイザー：愛媛県教育委員会
24. 学校防災教育推進委員会委員
25. 愛媛県河川整備計画専門委員会委員
26. 学校防災教育実践モデル地域研究事業実践委員会委員：四国中央市教育委員会
27. 松山市下水道事業経営審議会委員
28. 西予市防災会議委員

### 【相引 真幸】

論文・研究発表：

1. Matsumoto H, Takeba J, Umakoshi K, Kikuchi S, Ohshita M, Annen S, Moriyama N, Nakabayashi Y, Sato N, Aibiki M.
2. Decreased antithrombin activity in the early phase of trauma is strongly associated with extravascular leakage, but not with antithrombin consumption: a prospective observational study. Thromb J. 2018 Aug 1; 16: 17. doi: 10.1186/s12959-018-0171-7.

3. Takeba J, Umakoshi K, Kikuchi S, Matsumoto H, Annen S, Moriyama N, Nakabayashi Y, Sato N, Aibiki M.
4. Accuracy of screw fixation using the O-arm® and StealthStation® navigation system for unstable pelvic ring fractures. Eur J Orthop Surg Traumatol. 2018 Apr;28(3):431-438.
5. Keiko Tanaka AQ, Jun Takeba, Hironori Matsumoto, Muneaki Ohshita, Suguru Annen, Naoki Moriyama, Yuki Nakabayashi, and Mayuki Aibiki.
6. ANTICOAGULATION THERAPY USING RH-THROMBOMODULIN AND/OR ANTITHROMBIN III AGENT IS ASSOCIATED WITH REDUCTION IN INHOSPITAL MORTALITY IN SEPTIC DISSEMINATED INTRAVASCULARCOAGULATION: A NATIONWIDE REGISTRY STUDY, Shock, 2019, in press.
7. Mayuki Aibiki, TTM in Post-Cardiac Arrest Syndrome (PCAS), Second International Therapeutic Hypothermia Forum in Kaohsiung, June 2nd, 2018, Kaohsiung, Taiwan.
8. Mayuki Aibiki, The Latest Update of TTM in Post-Cardiac Arrest Syndrome (PCAS) Care. RCA symposium at AFCC, September 30th, 2018, Bangkok, Thailand.
9. Mayuki Aibiki, Update of Targeted Temperature Management for Post Cardiac Arrest Care with Case Discussion, 4th Indonesian Annual Meeting of Emergency Medicine, Dec., 11th, 2018. via Skype System from Tokushima, Japan.
10. Mayuki Aibiki, Scientific Advances on TTM for PCAS. Special Lecture, At the Integrated Cardiac Center Soetomo Hospital. Surabaya, Indonesia, Feb., 11th 2019.
11. Mayuki Aibiki, TTM Patient Management and Cooling Methods, Special Lecture, At the Semarang Heart Center, Semarang, Indonesia, Feb., 12th, 2019.
12. Mayuki Aibiki, Recent Advances in Post-cardiac Arrest Syndrome Care. Special Lecture, At the Indonesian National Cardiovascular Center. Jakarta, Indonesia, Feb., 13th, 2019.

## 【加藤 匡宏】

社会貢献活動 :

1. 日本精神神経学会
2. 日本消化器内視鏡学会
3. 日本心理臨床学会
4. 日本臨床心理士会
5. 日本公衆衛生学会
6. 日本疫学会
7. 日本衛生学会
8. 日本学校保健学会
9. 日本産業衛生学会
10. 日本農村医学会
11. 日本矯正教育学会
12. 首尾一貫感覚 (SOC) と循環器疾患発症および総死亡・死因別死亡のコホート研究 基盤研究

(C) 平成 29 年度

13. 自律神経系機能の低下と糖尿病発症に関するコホート研究 基盤研究 (C) 平成 26-28 年度
14. 地域住民を対象とする糖尿病罹患率の推計に関する疫学研究 基盤研究 (C) 平成 30 年度
15. 介護老人保健施設における交代勤務者の肥満改善の介入研究：時間栄養学的アプローチ 基盤研究 (C) 平成 30 年度
16. 季節性インフルエンザ感染者による感染経路とソーシャルキャピタルの関連 基盤研究 (C) 平成 30 年度
17. 保健指導への活用を前提としたメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出のための横断・縦断研究 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業 平成 21～25 年度 次世代多目的コホート研究
18. 愛媛県大洲市における循環器疾患予防対策推進のためのコホート研究 平成 20～38 年度（2027 年 3 月 31 日）
19. 愛媛県東温市地域住民の健康寿命に関する疫学研究 平成 15 年～平成 33 年度（2022 年 3 月 31 日）
20. 愛媛県医師会より、「地域医療の充実と地域住民の健康増進に寄与」した功績に対し表彰いただきました

論文・研究発表：

1. Association between employment status and self-rated health among middle-aged Japanese women: the effects of socioeconomic conditions and work-life conflict
2. Honjo, Kaori; Iso, Hiroyasu ; Ikeda, Ai; Yamagishi, Kazumasa; Saito, Isao; Kato, Tadahiro; Yasuda, Nobufumi; Aoyagi, Kiyoshi; Arima, Kazuhiko; Sakata, Kiyomi; Tanno, Kozo; Inoue, Manami; Iwasaki, Motoki; Shimazu, Taichi; Goto, Atsushi; Yamaji, Taiki; Sawada, Norie; Tsugane, Shoichiro
3. Journal of Epidemiology 2019(0005) 2019 年 1 月
4. Depression in the elderly in rural areas of Japan and its impact on activities of daily living: a longitudinal survey over 10 years
5. Kanako YAMAUCHI,Isao SAITO,Tadahiro KATO

【氏家 獻】

社会貢献活動：

1. 土木学会：副会長
2. 入札監視委員会委員：伊方町
3. 入札監視委員会委員： 宇和島市
4. コンクリート委員会常任委員： 土木学会
5. 全国鉄骨評価機構： 性能評価業務評価員
6. 総合評価審査員： 松山市
7. 日本コンクリート工学会四国支部： 幹事

8. 四国地方整備局総合評価委員会委員： 国土交通省
9. 建設工事総合評価審査委員： 愛媛県
10. 橋梁長寿命化修繕計画評価員： 愛媛県
11. 愛媛県生コンクリート品質管理監査会議： 議長： 愛媛県生コンクリート工業組合
12. 四国地方ダム等管理フォローアップ委員会： 委員： 国土交通省
13. ダム総合点検専門家： 国土交通省四国地方整備局
14. 建設審議会委員： 愛媛県
15. 四国地方整備局総合評価地域小委員会： 委員： 国土交通省

論文・研究発表：

1. Prima Yane PUTRI, Isao UJIKE, Keiyu KAWAAI : APPLICABILITY OF BIO-BASED MATERIALS TO REPAIR WATER LEAKAGE OF CONCRETE : コンクリート工学年次論文集 : Vol40, No.1, pp.1551-1556, 2018
2. K.Kawaai, I. Ujike, S. Fujioka, T. Nishida and A. Saito: CATHODIC POLARIZATION PROPERTIES OF STEEL BARS IN CONCRETE MIXED WITH AEROBIC MICROORGANIZM OF BACILLUS SUBTILIS: Final Conference of RILEM TC 253-MCI: Microorganizms-Cementitious Materials Interactions: Toulouse, France 25-26 June 2018:pp.259-266
3. Willick Nsama, Keiyu Kawaai, and Isao Ujike: INFLUENCE OF BLEEDING ON MODIFICATION OF PORE STRUCTURE AND CARBONATION-INDUCED CORROSION FORMATION: 4th International Conference on Service Life Design for Infrastructures (SLD4) -27-30 August 2018-Delft, Netherlands:pp.674-686
4. N. Sandra, K. Kawaai and Isao Ujike: CORROSION PROPERTIES OF HORIZONTAL STEEL BARS IN CONCRETE COLUMN SPECIMENTS CAST WITH COPPER SLAG FINE AGGREGATE: 4th International Conference on Service Life Design for Infrastructures (SLD4) -27-30 August 2019-Delft, Netherlands:pp.647-658
5. Prima Yane Putri, Isao Ujike, Keiyu Kawaai : Application of bio-based material for concrete repair: case study leakage on parallel concrete slab : MATEC Web of Conferences 258, 01013(2019) SCESCM 2018:初期養生がフライアッシュコンクリート中の腐食因子の浸入と鉄筋腐食抵抗性に与える影響:河合慶有, 氏家 勲:材料 第 66 卷(第 8 号) 608-614 2017 年 8 月
6. 杉野和可子、河合慶有、氏家勲： 初期養生がフライアッシュコンクリートの鉄筋腐食形態・性状に与える影響： 土木学会四国支部第 24 回技術研究発表会： 徳島大学： H30 年 5 月 19 日
7. 榊原洋子、岡崎慎一郎、氏家勲、河合慶有： 微生物代謝による炭酸カルシウム析出解析モデルの構築： 土木学会四国支部第 24 回技術研究発表会： 徳島大学： H30 年 5 月 19 日
8. 杉谷紗理、河合慶有、氏家勲： ERT によるモルタル中のひび割れからの水分移動の可視化： 土木学会四国支部技術研究発表会： 徳島大学： H30 年 5 月 19 日
9. 井手昌彦、河合慶有、氏家勲： 納豆菌とアルギン酸を用いたグラウト材のひび割れ補修効果

の検討： 土木学会四国支部第 24 回技術研究発表会： 徳島大学： H30 年 5 月 19 日

10. 藤岡宗一郎、河合慶有、氏家勲： 納豆菌の微生物代謝が鉄筋腐食抑制効果に与える影響： 土木学会四国支部第 24 回技術研究発表会： 徳島大学： H30 年 5 月 19 日
11. 中野魁、奥野宙、Dewi Ardit Nurarta、氏家勲： 高強度コンクリートの高圧加熱時の圧縮強度： 土木学会四国支部第 24 回技術研究発表会： 徳島大学： H30 年 5 月 19 日  
銅・マンガンスラグ細骨材およびフライアッシュを用いたコンクリートの乾燥収縮ひび割れ抵抗性: 河合慶有、氏家 勲、水越睦視: 材料 第 66 卷(第 8 号) 615-620 2017 年 8 月

#### 【日向 博文】

社会貢献活動：

1. 平成 30 年度土木学会四国支部研究・論文賞

論文タイトル：仮想津波観測実験に基づく海洋レーダによるリアルタイム津波検知手法の開発  
受賞者：尾方浩平、藤良太郎、日向博文

論文・研究発表：

2. Hinata, H., Mori, K., Ohno, K. and Miyao, Y. (2017): An estimation of the average residence times and onshore-offshore diffusivities of beached microplastics based on the population decay of tagged meso- and macrolitter, Marine Pollution Bulletin, 1-2, 17-26.
3. Fuji, R. and Hinata, H. (2017): Temporal variability of tsunami arrival detection distance revealed by virtual tsunami observation experiments using numerical simulation and 1-month HF radar observation, Journal of Oceanography, Journal of Oceanography, 73, 725-741.
4. 岡本 萌・高橋知幸・藤良太郎・日向博文 (2017): チリ沿岸で発生する遠地津波を対象とした海洋レーダの観測性能に関する検討, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol. 73, No. 2, I\_1615\_I1620.
5. 尾形浩平・藤良太郎・日向博文 (2017): 仮想津波観測実験に基づく海洋レーダによるリアルタイム津波検知手法の開発, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol. 73, No. 2, I\_433\_I438.
6. Toguchi, Y., Fujii, S. and Hinata, H. (2018): Tsunami Waves and Tsunami - Induced Natural Oscillations Determined by HF Radar in Ise Bay, Japan, Journal of Geophysical Research: Oceans, 123 (4), 2965-2980, <https://doi.org/10.1029/2017JC013626>. (IF=2.711)
7. Sagawa, N., Kawahashi, K. and Hinata, H. (2018): Abundance and size of microplastics in a coastal sea: Comparison among bottom sediment, beach sediment, and surface water, Marine Pollution Bulletin, 133, 532-542. (IF=3.241)
8. Ogata, K., Seto, S., Fuji, R., Takahashi, T. and Hinata, H. (2018): Real-time tsunami detection with oceanographic radar based on virtual tsunami observation experiments, Remote Sensing, 10 (7), 1126; <https://doi.org/10.3390/rs10071126>. (IF=3.405)
9. Kataoka, T., Nihei, Y., Kudo, K. and Hinata, H. (2018): Assessment of the sources and inflow processes of microplastics in the river environments in Japan, Environmental Pollution, 244, 958-965. (IF=4.358)

10. 門廻充侍・高橋智幸・日向博文・藤良太郎・今村文彦 (2018) : 1 局の海洋レーダを用いた津波波峰推定法の検討とその適用例, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.74, No.2, I\_511-I\_516.
11. 田中良仁・上原史洋・日向博文・藤良太郎 (2018) : 遠州灘における海洋レーダの津波観測性能評価 -仮想津波観測実験を用いた検討-, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.74, No.2, I\_523-I\_528.
12. 桝本一成・加三千宣・日向博文 (2018) : 別府湾におけるマイクロプラスチックの堆積フラックス, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.74, No.2, I\_1321-I\_1326.

### 【都築 伸二】

社会貢献活動 :

1. 公開講座・講演会 「情報化社会と私たちの暮らし」 主催： NPO 法人愛媛大学校友会人材活用センター, 平成 30 年 5 月 26 日 (土, : 愛媛大学・メディアセンター・メディアホール,) 「暮らしの中の通信技術」 15:00 ~ 16:20, 都築 伸二.
2. 2001 年 05 月 -, 電子情報通信学会, ワイドバンドシステム研究専門委員会 専門委員
3. 2016 年 04 月 -, 四国情報通信懇談会, I C T 研究交流フォーラム 幹事
4. 2016 年 04 月 -, 四国情報通信懇談会, 運営委員長
5. 2016 年 04 月 -, 総務省 四国総合通信局 電波監理部 電波利用環境課, 電波適正利用推進員選考会 委員
6. 2016 年 04 月 -, えひめ東予産業創造センター, 入居審査専門委員会委員
7. 2016 年 04 月 -, IEEE ISPLC, TPC member

論文・研究発表 :

1. 分担、スマートグリッド・コミュニティの EMC 問題調査専門委員会編、スマートグリッドにおける EMC 課題、第 8 章 Smart EMC(pp.45-59), 8.1 節 総論 (pp.45-46)、電気学会技術報告、第 1448 号、発行日 2018/12/05
2. 都築伸二, 愛媛大学の I o T 関連取り組み, 電子情報通信学会通信方式研究会第 2 種研究会第 31 回情報伝送と信号処理ワー クショップ(C S W S 3 1) 「進化する I C T と地域創生」 第 1 セッション, 2018 年 10 月 31 日 (水) 13:40-14:20 松山市立子規記念博物館, 松山市.
3. 谷田 浩輝 都築 伸二, クレーン用ワイヤーロープによる電力伝送方式とその効率, 3-1, p.35, 平成 30 年度電気関係学会四国支部連合大会講演論文集, 松山、愛媛大学, 平成 30 年 9 月 22 日
4. 稲田隼輔, 寺川尚希, 都築伸二, センサーネットワーク用 LoRa マルチホップ中継機の評価, 平成 30 年度電気関係学会四国支部連合大会講演論文集, 12-11, p.120, 松山、愛媛大学, 平成 30 年 9 月 22 日
5. 中村友弥, 都築伸二, 安原英明, 木下尚樹, 戸田光, Aulia Dharma Putra, LoRaWAN Gateway から見た LOS 範囲と通信可能場所との関係, 平成 30 年度電気関係学会四国支部連合大会講演論文集, 12-12, p.121, 松山、愛媛大学, 平成 30 年 9 月 22 日

## 【榎原 正幸】

社会貢献活動：

1. 2018.5.20：茶摘みの会：愛媛大学 社会共創学部：東温市上林：16名
2. 2018.7.5：「社会共創学-地域社会の未来を共に創る人材をめざそう！」大学出張講義：愛媛県立松山北高等学校：30名
3. 2018.7.31：「地域社会の未来を共に創る人材を目指そう！」大学出張講義：愛媛県立東温高等学校：80名
4. 2019.1.16：「貧困問題と環境破壊～持続可能な社会を目指して～」：地球研(SSH 事業の一環)にもとづく特別講義：京都府立洛北高等学校：73名
5. 2 松山市環境審議会：松山市環境審議会委員：松山市環境部環境モデル都市推進課（H29年12月～現在に至る）
6. 松山市土壤汚染対策専門委員会：松山市土壤汚染対策専門委員：松山市環境部環境指導課（H29年11月～現在に至る）
7. 松山市文化財保護審議会：松山市文化財保護審議会委員：松山市教育委員会（H29年4月～現在に至る）
8. 四国西予ジオミュージアム（仮称）展示内容検討委員会：四国西予ジオミュージアム（仮称）展示内容検討委員：西予市
9. 西予市ジオパーク拠点施設建設検討委員会：西予市ジオパーク拠点施設建設検討委員会委員：西予市
10. 四国西予ジオの至宝認定審査会審査員：四国西予ジオパーク推進協議会：西予市
11. 西条市アカデミックアドバイザー委員会：西条市アカデミックアドバイザー：西条市（H29年2月～現在に至る）
12. 総合地球環境学研究所 教授・SRIREP プロジェクトリーダー：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所（H30年6月1日～）
13. 学長特別補佐：国立大学法人 愛媛大学
14. 國際連携推進機構副機構長：国立大学法人 愛媛大学
15. SUIJI 推進室長：国立大学法人 愛媛大学
16. アジア・アフリカ交流センター長：国立大学法人 愛媛大学
17. 防災情報研究センター教授：国立大学法人 愛媛大学
18. 地域協働センター西条教授：国立大学法人 愛媛大学
19. 将来構想検討ワーキンググループ委員：国立大学法人 愛媛大学
20. 教育研究評議会評議員：国立大学法人 愛媛大学

論文・研究発表：

1. Nurfitri Abdul Gafur., Sakakibara, M., Sano, S. and Sera, K. A Case Study of Heavy Metal Pollution in Water of Bone River by Artisanal Small-Scale Gold Mine Activities in Eastern Part of Golontalo, Indonesia. Water2018, 10(11)pp.1507, 2018年10月.
2. Sri Manovita Pateda, Sakakibara, M. and Sera, K. Lung Function Assessment as an Early

- Biomonitor of Mercury-Induced Health Disorders in Artisanal and Small-Scale Gold Mining Areas in Indonesia. Environmental Research and Public Health, 15(11) pp.2480, 2018年11月.
3. Kuruniawan, I. A., Sugawara, H., Sakakibara, M., Arifin, Y.I. and Eraku, S.S. The Potential of Gorontalo Province as Global Geopark. Post Proceeding of International Conference on Transdisciplinary Approach Reseach, in Printing.
  4. Hendra Prasetya , Sakakibara, M. and Sera, K. Preliminary study of atmospheric mercury contamination assessment using tree bark in ASGM area in North Gorontalo Regency, Indonesia. Post Proceeding of International Conference on Transdisciplinary Approach Reseach, in Printing.
  5. Gafur, N. A., Sakakibara, M., Sera, K. and Arifin, Y .I. Toxic metal concentrations of human hair in downstream of ASGM sites in Bone Bolango Regency, Gorontalo Province, Indonesia. Post Proceeding of International Conference on Transdisciplinary Approach Reseach, in Printing.
  6. Okazaki, K., Yamazaki, S., Kurahashi, T. and Sakakibara, M. An Artificial Channel Purification Experiment for Aresenic-rich Drainage Water from the Abandaned Mineby using Eleocharis acicularis. Post Proceeding of International Conference on Transdisciplinary Approach Reseach, in Printing.
  7. Kasamatsu, H., Jahja, M.,Arifin, Y.I., Baga, M., Shimagami, M. and Sakakibara, M. Prior Study for the Biology and Economic Condition as Rapidly Environmental Change of Limboto Lake in Gorontalo, Indonesia. Post Proceeding of International Conference on Transdisciplinary Approach Reseach, in Printing.
  8. Basri and Sakakibara,M. The stakehoder's position map related to the mercury pollution reduction program in Bombana area, Southeast Sulawesi, Indonesia. Post Proceeding of International Conference on Transdisciplinary Approach Reseach, in Printing.
  9. Pateda, S. M. and Sakakibara, M. Preliminary study on Human Lung Function of Artisanal and Small-scale Gold Miner i Gorontalo Province, Indonesia. Post Proceeding of International Conference on Transdisciplinary Approach Reseach, in Printing.
  10. Basri, Sakakibara,M., Sera,K.and Idham Andri Kurniawan. Mercury contamination of cattle in artisanal and small-scale gold mining in Bombana, Southeast Sulawesi, Indonesia 第24回 NMCC 共同利用研究成果発表会, 2018年5月12日, 盛岡市. +46:4640:48B4440:40:45
  11. Hendra Prasetya, Sakakibara,M. and Sera, K. Atomospheric mercury contamination assessment using various tree bark in an ASGM area in North Gorontalo Regency, Indonesia 第24回 NMCC 共同利用研究成果発表会, 2018年5月12日, 盛岡市.
  12. Sri Manovita Pateda, Sakakibara,M. and Sera, K. Lung function assessment as an early biomonitor of mercury-induced health disorders in an artisanal and small-scale gold mining area of Gorontalo province, Indoneisa. 第24回 NMCC 共同利用研究成果発表会, 2018年5月12日, 盛岡市.

13. Basri and Sakakibara, M. Health Impact Assessment of Artisanal and Small-Scale Gold Mining in Bomabana, Southeast Sulawesi, Indonesia. The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018), 2018年8月11日, ゴロンタロ(インドネシア) .
14. Hendra Prasetya, Masayuki Sakakibara, Koichiro Sera. Atmospheric Mercury Contamination Assessment Using Various Tree Bark in an ASGM Area in North Gorontalo Regency, Indonesia. The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018), 2018年8月11日, ゴロンタロ(インドネシア)
15. Arifin, Y.I., Sakakibara, M. and Sera, K. Assessing impact of artisanal and small scale gold mining activities on inhabitants and miners: a case study in Bolaang Mongohdow, North Sulawesi Province, Indonesia, 2018年8月11日, ゴロンタロ(インドネシア).
16. Sri Manovita Pateda, Sakakibara, M. and Sera, K. Early Detection of Mercury-induced Health Disorders in Artisanal and Small-scale Gold Mining Area in Gorontalo Province, The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018), 2018年8月11日, ゴロンタロ(インドネシア) .
17. Abbas, H.H., Sakakibara, M., Sera, K. and Sididi, M. The Social Economic and Mercury Exposure of Goldsmith in Manggala Subdistrict of Urban Artisanal Gold Minig (UAGM) Area in Makassar, South Sulawesi, Indonesia, The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018), 2018年8月11日, ゴロンタロ(インドネシア) .
18. Gafur, N. A., Masayuki Sakakibara., Sano, S. and Sera, K. Heavy Metal Pollution of Bone River water and Sediment in Gorontalo Province, Indonesia, The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018), 2018年8月11日, ゴロンタロ(インドネシア) .
19. Andi, A., Masayuki Sakakibara. and Sano, S. Heavy Metal Potential at Settling Pond of Coal Mining, East Kalimantan, Indonesia, The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018), 2018年8月11日, ゴロンタロ(インドネシア) .
20. Kasamatsu, H., Shimagami, M. and Sakakibara, M. The Researchers Role and Future View of TDCOPs from Case Study of Dihime Limboto-ko, Gorontalo District, The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018), 2018年8月11日, ゴロンタロ(インドネシア) .
21. Htun, M.H. and Sakakibara, M. Assessment of the Effectiveness of the Knowledge and Practice Based Mercury (HG) Free Society Networks for the Reduction of Mercury Pollution Problems in ASEAN Countries. The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018), 2018年8月11日, ゴロンタロ(インドネシア) .

22. Okazaki, K., Kurahashi, T., Yamazaki, S. and Sakakibara, M. Temperature dependence for purification of leachate containing heavy metals by phytoremediation using the artificial channel. The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018),2018年8月11日,ゴロンタロ(インドネシア) .
23. Sakakibara, M., Tanaka, K., Kasamatsu, H. and Shimagami, M. Co-creation of Sustainable Regional Innovation for Reducing Risk of High-impact Environmental Pollution. The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018),2018年8月11日,ゴロンタロ(インドネシア) .
24. Shimagami, M., Kasamatsu, H. and Sakakibara, M. Kikigaki Program as a Transformative Boundary Object for Stimulating Sustainable Refional Innovation through Cross-generational Urban-Rural Interaction: Case studies from Japan and Indonesia. The 3rd international conference of the Transdisciplinary Research on Environmental Problems in Southeast Asia(TREPSEA2018),2018年8月11日,ゴロンタロ(インドネシア) .
25. Sakakibara, M. Co-creation of sustainable regional innovation for reducing risk of high-impact environmental pollution. 招待講演, 2018年8月15日,Universitas Muhammadiyah, Gorontalo, Indonesia.
26. Sakakibara, M. Futurability of Gorontalo Geopark- Promoting Earth Heritage & Sustaining Local Communities-. 招待講演, 2018年9月4日, Gorontalo Province, Indonesia.
27. Kasamatsu, H. Sakakibara, M., Tanaka, K., Komatsu, S. and Shimagami, M. Transdisciplinary approaches for creation innovative livelihood alternatives in high environmental loading areas affected by mercury pollution in Indonesia. World Science Forum, 2018年9月25日, 福岡市.
28. Sakakibara, M. Co-creation of sustainable regional innovation for reducing risk of high-impact environmental pollution. Narural Resources and Environmental Conservation, 2018年10月30日, Naypyidaw, Myanmar.
29. Sakakibara, M. Transdisciplinary Reseach and Practice for Reducing Environmental Problems i ASEAN Countries. 1st ASEAN -Japan Meeting Pont of Collaboration by Stakeholders and Researchers for Reducing Environmental Problems In ASEAN Coutries, 2018年12月9日, Bandung, Indonesia.

### 【岡村 未対】

社会貢献活動 :

1. 2018.11 : TRD 皇后技術セミナー, 東京、(360名)
2. 2018.11 第三回河川堤防勉強会, 阿南市, 40名
3. 2019.1 第一回河川堤防耐震勉強会, 徳島市, 40名
4. 2018.9 : UCDGG Symposium : カリフォルニア大学デービス校、30名
5. 河川砂防技術基準改定委員会 委員 (国土交通省水資源国土保全局)

6. 社会資本整備審議会道路分科会 委員（国土交通省道路局）
7. 堤防研究会 委員（国土交通省 水資源国土保全局）
8. 堤防研究会耐震 WG 委員（国土交通省 水資源国土保全局）
9. 2015年関東・東北豪雨災害 土木学会・地盤工学会合同調査団 副団長
10. 科学研究費委員会専門委員（日本学術振興会）
11. 土木学会国際部門/CECAR8 準備委員会（土木学会） 委員
12. 道路防災有識者（国土交通省四国地方整備局）
13. 四国地方整備局事業評価監視委員会（国土交通省四国地方整備局）委員
14. 社会インフラのモニタリング技術活用推進検討委員会（SIP） 河川堤防ワーキンググループ  
(国土交通省大臣官房) 主査
15. リバーカウンセラー（国土交通省四国地方整備局）
16. 松山空港地盤改良修補有識者委員会（沿岸技術研究センター）委員
17. The Asian Civil Engineering Coordinating Council, Executive Committee Meeting Member
18. The Asian Civil Engineering Coordinating Council, Chair of Planning Committee Meeting
19. 重信川流域学識者会議（国土交通省四国地方整備局）委員
20. 土木技術者資格委員会上級土木技術者資格小委員会（土木学会）幹事
21. 土木技術者資格委員会特別上級土木技術者資格小委員会（土木学会）幹事
22. Chairman, Asian Technical Committee 3, 国際地盤工学会
23. 重信川堤防調査委員会（国土交通省四国地方整備局）委員
24. 胴川流域学識者会議（国土交通省四国地方整備局）委員
25. 土木学会地盤工学委員会堤防小委員会 委員（土木学会）
26. (財)FLIP 研究会 顧問
27. Air-Des 工法研究会 顧問
28. ネパールエンジニアリングカレッジ客員教授
29. 2018.6 河川技術論文賞

#### 論文・研究発表：

1. 林和幸, 岡村未対, 安原英明, Minson Simatupang (2018):炭酸カルシウム結晶析出時の飽和度が改良砂の液状化強度特性に及ぼす影響, 土木学会論文集 C、Vol.74, No.2, pp. 164-176.
2. T. Carey, A. Gavras, B. Kutter, M. Okamura, D.S. Kim, K. Ueda, W.Y. Hung, Y.G. Zhou, M. Zeghal, M. Manzari (2018): A new shared miniature cone penetrometer for centrifuge testing, Proc. Int. Conf. on Physical Modelling in Geotechnics 2018, pp. 293-298.
3. Bruce Kutter, Trevor J Carey, Barry Zheng, Andreas Gavras, Nicholas Stone, Mourad Zeghal, Tarek Abdoun, Evangelia Korre, Majid Manzari, Gopal SP Madabhushi, Stuart Haigh, Srikanth SC Madabhushi, Mitsu Okamura, Asri Nurani Sjafuddin, Sandra Escoffier, Dong-Soo Kim, Seong-Nam Kim, Jeong-Gon Ha, Tetsuo Tobita, Hikaru Yatsugi, Kyohei Ueda, Ruben R. Vargas, Wen-Yi Hung, Ting-Wei Liao, Yan-Guo Zhou, Kai Liu (2018): Twenty-Four Centrifuge Tests to

- Quantify Sensitivity of Lateral Spreading to Dr and PGA, Geotechnical Earthquake Engineering and Soil Dynamics V, GSP vol. 293, ASCE, pp. 383-393. (10.1061/9780784481486.040)
4. Mitsu Okamura, Tadahiro Inoue, Naoko Jin-nouchi and Kohei Ono (2018): Reduction in liquefaction induced settlement of river levee by enhancing horizontal stress with sheet piles, Proc. 1st international conference on Press-in Engineering
  5. M. Okamura, M. Imamura & N. Jin-nouchi (2018): Internal erosion in foundation soil under sand levee and its manifestation on levee surface, Proc. International Conference on Scour and Erosion IX.
  6. Mitsu Okamura and Asri Nurani Sjafruddin (2018): LEAP-2017 Centrifuge Test at Ehime University. Liquefaction Experiments and Analysis Projects: LEAP - 2017 - Reproducibility, Uncertainty and Sensitivity Analyses, Zeghal, Kutter and Manzari (Edits), Springer.

### 【千代田 憲子】

社会貢献活動 :

1. 2018.12.1 : パブリックデザインと景観のイメージと色彩・配色と調和- : 愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム : 愛媛大学:愛媛大学地域協働センター西条 : 16名
2. 景観施策アドバイザー : 国土交通省四国地方整備局
3. 愛媛県景観形成アドバイザー : 愛媛県
4. 愛媛県屋外広告物審議会 : 委員 : 愛媛県
5. 松山市景観審議会 : 委員長 : 松山市
6. 松山アーバンデザインセンター非常勤スタッフ : プロジェクトアドバイザー : 松山アーバンデザインセンター(UDCM)
7. 公益社団法人愛媛県建築士会建築甲子園委員会 : 委員 : 公益社団法人愛媛県建築士会
8. 愛媛県文化財保護審議会 : 委員 : 愛媛県
9. JA 共済小・中学校交通安全ポスターコンクール愛媛県審査会 : 委員長 : JA 共済連愛媛
10. 染色工芸 IIIb : 非常勤講師 : 国立大学法人佐賀大学芸術地域デザイン学部

論文・研究発表 :

1. 千代田憲子 : 伝統的工芸と生活デザインを結ぶデザイン教育についてー1・タイ山岳民族の染織を例に- : 愛媛大学教育学部紀要 : 第 65 卷、211-218 : 2018.12
2. 佐々木昌夫・原田義明・千代田憲子・福井一真・秋山敏行 : 状況展開催についての一考察・制作活動における学生の意識の変容について : 愛媛大学教育学部紀要 : 第 65 卷、60-72 : 2018.12
3. 千代田憲子:環 - I:環の室礼 千代田憲子展 檀紙・水引・寒冷紗によるテキスタイル造形とインスタレーション : 環のひろば ゆたか庵(松山) : h70-w203-d235cm(2 点組) : 2019.2.16/17/23/24
4. 千代田憲子 : 環- II : 環の室礼 千代田憲子展 檀紙・水引・寒冷紗によるテキスタイル造形とインスタレーション : 環のひろば ゆたか庵(松山) : h17-w71-d57cm : 2019.2.16/17/23/24
5. 千代田憲子 : 環 - III : 環の室礼 千代田憲子展 檀紙・水引・寒冷紗によるテキスタイル造形とインスタレーション : 環のひろば ゆたか庵(松山) : h181-w78-d2cm(2 点組) :

2019.2.16/17/23/24

6. 千代田憲子：環 -VI：環の室礼 千代田憲子展 檀紙・水引・寒冷紗によるテキスタイル造形とインスタレーション：環のひろば ゆたか庵(松山) : h22-w75-d33cm : 2019.2.16/17/23/24
7. 千代田憲子：環 -V：環の室礼 千代田憲子展 檀紙・水引・寒冷紗によるテキスタイル造形とインスタレーション：環のひろば ゆたか庵(松山) : h30-w40-d30cm : 2019.2.16/17/23/24
8. 千代田憲子：陰翳 VI ver.2：環の室礼 千代田憲子展 檀紙・水引・寒冷紗によるテキスタイル造形とインスタレーション：環のひろば ゆたか庵(松山) : h15-w100-d400cm : 2019.2.16/17/23/24 千代田憲子：デザイン教育における映像メディア表現に関する考察：愛媛大学教育学部紀要：第 64 卷、285-296 : 2017.12

#### 【柳原 頂】

社会貢献活動：

1. 道後温泉活性化懇談会 オブザーバー (松山市)
2. 道後温泉活性化懇談会 (観光資源化関係) 委員 (松山市)
3. 道後温泉活性化懇談会 (交通関係) 委員 (松山市)
4. 道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会 顧問 (道後温泉誇れるまちづくり推進協議会)
5. 道後温泉観光会館再生整備構想検討委員会 委員 (道後温泉旅館協同組合)
6. 都市再生整備計画(道後文教地区)評価委員会 委員 (松山市)
7. 河原デザイン・アート専門学校教育過程編成委員会 委員 (河原デザイン・アート専門学校)

#### 【尾崎 信】

社会貢献活動：

1. 2018.05.08 :「UDCM における公共空間の活用」: 全国エリアマネジメント ネットワークシンポジウム 2018 in Hiroshima : 全国エリアマネジメント ネットワーク : 広島市・NTT クレドホール : 500 名
2. 2018.05.12 :「松山アーバンデザインセンターの取り組み」: 松山アーバンデザインスクール基礎編 : 松山アーバンデザインスクール運営委員会 : 松山大学 : 40 名
3. 2018.06.23 :「UDCM における拠点施設の考え方と運営」: アーバニスト (まちづくりディレクター) 養成プログラム : UDC イニシアチブ : 柏市・UDCK : 30 名
4. 2018.10.05 :「松山アーバンデザインセンターの活動紹介」: 第 6 回全国まちなか広場研究会/第 6 回アーバンデザインセンターカンファレンス : 全国まちなか広場研究会・一般社団法人 UDC イニシアチブ : 松山市民会館 : 200 名
5. 2018.10.25 :「公共空間を人の居場所に 松山のまちなか再生」(パネルディスカッション) : 第 6 回全国まちなか広場研究会/第 6 回アーバンデザインセンターカンファレンス : 全国まちなか広場研究会・一般社団法人 UDC イニシアチブ : 松山市民会館 : 200 名
6. 2018.10.23 :「松山駅周辺土地利用勉強会の取り組み」: 松山駅周辺フューチャーデザイン 2018 第 1 回セミナー : 松山市 : 松山市・中央公民館 4F 大ホール : 70 名
7. 2018.11.21 : クロストーク (札幌駅前通まちづくり株式会社代表取締役・白石健志氏と) : 松山

- 駅周辺フューチャーデザイン 2018 第 2 回セミナー：松山市：松山市・中央公民館 4F 大ホール：40 名
8. 2018.11.25：「松山アーバンデザインセンターの活動紹介」：マチナカギカイ：New World Party：岡山市・蔭涼寺：40 名
9. 2019.01.27：総合コーディネーター：平成 30 年度松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会総括フォーラム：松山市：松山市・中央公民館 4F 大ホール：70 名
10. 2019.02.23：「温泉とデザイン」（クロストーク）：街の中の雲：道後雲使い集団：松山市・道後温泉別館飛鳥乃湯泉中庭：30 名
11. 2019.02.24：「温泉とアート」（クロストーク）：街の中の雲：道後雲使い集団：松山市・道後温泉別館飛鳥乃湯泉中庭：40 名
12. 2019.03.08：「松山における「まちづくり」の現在と未来」：松山商工会議所産業振興委員会：松山商工会議所：松山市・松山商工会議所会議室：10 名
13. 2019.03.21：「松山アーバンデザインセンターと公民連携」：公民連携エリアトークセッション in 徳島大学：大和リース：徳島大学常三島キャンパスフューチャーセンター・アバ：50 名
14. 松山市 立地適正化及び交通網形成検討協議会 鉄軌道検討部会：委員：松山市
15. 松山市 立地適正化及び交通網形成検討協議会 公共交通利用促進検討部会：委員：松山市
16. 松山市 立地適正化及び交通網形成検討協議会 自転車検討部会：委員：松山市
17. 道後温泉活性化懇談会：委員：松山市
18. 道後温泉活性化懇談会（観光資源化関係）：委員：松山市
19. 道後温泉活性化懇談会（交通関係）：委員：松山市
20. 道後温泉観光会館再整備検討委員会：協力委員：道後温泉旅館組合
21. 松山駅周辺地区車両基地跡地利用に関する基本計画策定検討業務委託プロポーザル：有識者：松山市
22. 松山駅周辺景観まちづくりワークショップ運営支援等業務委託プロポーザル：有識者：松山市
23. 松山駅前広場等整備基本計画検討業務委託プロポーザル：有識者：松山市
24. 松山市シェアサイクル実証実験事業 選考委員会：外部委員：松山市
25. 松山市駅前商店街まちづくり事業業務委託プロポーザル：審査員：松山駅前商店街
26. 東温市市民提案活動支援制度審査委員会：審査委員：東温市
27. 東温市頑張る中山間地域等支援事業補助金審査委員会：委員：東温市
28. 掛川市都市再生協議会：会長：掛川市
29. 掛川市都市計画審議会：会長：掛川市
30. 掛川市景観審議会：委員：掛川市
31. 長崎駅周辺エリアデザイン調整会議：委員：長崎県
32. 平泉町重要公共施設デザイン会議：委員：平泉町
33. 土木学会 土木図書館委員会 ドボ博小委員会：委員：土木学会
34. 芝浦工業大学 土木工学科：非常勤講師：芝浦工業大学
35. 2018.10.03：グッドデザイン賞（移動する建築）：公益財団法人日本デザイン振興会
36. 2018.10.03：グッドデザイン賞（道後温泉別館飛鳥乃湯泉）：公益財団法人日本デザイン振興会

論文・研究発表：

1. 尾崎信：「街路におけるつくる／つくらないデザインの動向」：国際交通安全学会：国際交通安全学会誌 IATSS Review : Vol.43, No.1, pp.42-50 : 2018.6
2. 小野 悠・尾崎 信・片岡 由香・羽鳥 剛史・羽藤 英二「地方中核市におけるアーバンデザインセンターの実践 松山アーバンデザインセンターを事例に」：日本建築学会：日本建築学会計画系論文集 Vol.84, No.755, pp.167-177 : 2019.1
3. 東京大学キャンパス計画室編（尾崎は編集幹事および執筆者）：「東京大学本郷キャンパス 140 年の歴史をたどる」：東京大学出版会 : 2018.6
4. 尾崎信：「土木構造物の美観」「インフラのトータルデザイン」：都市史学会編・丸善出版：日本都市史・建築史事典 : pp.536-537 : 2018.11
5. 石橋知也・尾野薰・山口敬太・尾崎信「「地域の社会-空間」における研究方法論の模索-事例報告の分析を通じて-」：土木学会土木計画学研究発表会：東京工業大学 : 2018.6.9
6. 小川 直史・羽鳥 剛史・片岡 由香・尾崎 信「まちづくりの担い手育成プログラムと地域活性化への展開 -松山アーバンデザインスクールの事例-」：グローバルビジネス学会：早稲田大学 : 2018.7.8

【矢田部 龍一】

社会貢献活動：

1. 4.15 今求められる防災対策と国際貢献:広島平和学術フォーラム:ひろしま国際ホテル:50 名別館:12 名
2. 6.29 南海トラフ巨大地震に向けた事前復興デザインへの取り組み:愛媛県ジオファイバー協会、松山全日空ホテル:20 名
3. 5.24 大規模自然災害に備える-建設業界の役割-轟組建友会平成 29 年度安全大会:サンピアセリーズ:200 名
4. 7.2 四万十川流域市町村の実情と課題:四万十市西土佐総合支所:30 名
5. 10.27 巨大災害の時代に備える:京大同窓会:ホテルマイスティズ松山:50 名
6. 10.28 切れ目のない防災教育の展開による地域力の向上:学生防災リーダー講演会:愛媛大学メディアホール:40 名
7. 11.10 今求められる防災対策と国際貢献:愛媛平和学術フォーラム:えひめ共済会館:60 名
8. 11.13 パネルディスカッションコーディネーター「災害復興の現場から考える」:国大協平成 30 年度防災・日本再生シンポジウム:愛媛大学南加記念ホール:250 名
9. 12.2 大企保自然災害の時代を迎えて-土木施工管理技士の役割-:愛媛県施工管理技士会:テクノプラザ愛媛 100 名
10. 2.10 自然災害に備えた自助共助の在り方-防災教育の必要性-:新居浜市公開講座:新居浜市図書館:90 名
11. 3.23 パネルディスカッションコーディネーター「宇和海沿岸地域のトップリーダーと事前復興を考える」:平成 30 年度事前復興フォーラム-7 月豪雨災害を教訓に南海トラフ巨大地震の事前復

- 興を考える:宇和島市立南予文化会館:500 名
12. 四国ブロック南海地震研究委員会委員長:土木学会四国支部
  13. 2019 年度 C-BEST 国内支援委員 :JICA
  14. 愛媛県環境審議会副会長:愛媛県
  15. 伊方原子力発電所環境安全管理委員会委員:愛媛県
  16. 愛媛県環境審議会温泉部会委員:愛媛県
  17. 石手川ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会会长
  18. 松山市下水道事業経営審議会副会長:松山市
  19. 西日本高速道路(株)四国支社入札監視委員会委員:NEXCO 四国支社
  20. (財)防災研究協会非常勤研究員:防災研究所
  21. 松山市都市再生協議会会长
  22. 道路防災有識者 : 国土交通省四国地方整備局
  23. 大洲城跡石垣保存修復委員会委員:大洲市
  24. NPO 法人愛媛県建設技術支援センター理事
  25. 一般社団法人四国クリエイト協会非常勤理事
  26. 高知県災害復旧に関する技術検討会会长:NEXCO 西日本四国支社
  27. 平成 30 年度松山自動車道地すべり検討会会长:NEXCO 四国支社
  28. H30 四国支社管内 のり面防災技術検討委員会委員長:NEXCO 四国支社
  29. 一般社団法人建設機械化協会四国支部運営委員会委員
  30. NPO 法人日本環境土木工業会顧問
  31. H31.3.4: 高知県災害復旧に関する技術検討への感謝状:NEXCO 西日本

論文・研究発表 :

1. Bhandary N. P., 山岸宏光、矢田部龍一: 四国の地すべりデータベースの構築とハザードマップの試み: 防災・環境のための GIS, 古今書院, 2018.8.15
2. 西村、門田、矢田部:官民学が連携した小学生から高齢者に至る切れ目のない防災教育プロジェクト、土木学会四国支部、21世紀の南海地震と防災、第 13 卷、pp.37-41、2018.12
3. 全、森脇、山本、薬師寺、新宮、矢田部、羽藤、萩原、井本:宇和海沿岸地域の南海トラフ地震事前復興デザイン共同研究の取り組み、土木学会四国支部、21世紀の南海地震と防災、第 13 卷、pp.41-49、2018.12

## 【安原 英明】

社会貢献活動 :

1. 国土交通省四国地方整備局「道路防災有識者」
2. 経済産業省中国四国産業保安監督部地方鉱山保安協議会委員
3. 愛媛県建設工事総合評価審査委員
4. (一財) 防災研究協会 非常勤研究員

5. 2018.11.2 : The ISRM Franklin Lecture : International Society for Rock Mechanics and Rock Engineering
6. 2019.1.13 : 第 46 回岩盤力学に関するシンポジウム優秀講演論文賞（共著：緒方ほか）：土木学会

論文・研究発表：

1. 緒方蔵, 安原英明, 岸田潔(2018), 圧力溶解を考慮した連成モデルへの Dual Porosity 理論実装と岩盤の長期透水性評価, 材料, 67, 310-317.
2. 林 和幸・岡村 未対・安原 英明・Minson SIMATUPANG (2018), 炭酸カルシウム結晶析出時の飽和度が改良砂の液状化強度特性に及ぼす影響, 土木学会論文集 C(地盤工学), 74, 164-176.
3. Sho Ogata, Hideaki Yasuhara, Naoki Kinoshita, Dae-Sung Cheon, Kiyoshi Kishida (2018), Modeling of coupled thermal-hydraulic-mechanical-chemical processes for predicting the evolution in permeability and reactive transport behavior within single rock fractures, International Journal of Rock Mechanics and Mining Sciences, 107, 271–281. doi.org/10.1016/j.ijrmms.2018.04.015
4. Putra, H., Yasuhara, H., Kinoshita, N., Erizal and Sudibyo, T. (2018), Improving Shear Strength Parameters of Sandy Soil using Enzyme-Mediated Calcite Precipitation Technique, Journal of Civil Engineering Science and Application, Civil Engineering Dimension, 20, 91-95.
5. Minson Simatupang, Mitsu Okamura, Kazuyuki Hayashi, Hideaki Yasuhara (2018), Small-strain shear modulus and liquefaction resistance of sand with carbonate precipitation, Soil Dynamics and Earthquake Engineering, 115, 710-718
6. Ogata, S., Yasuhara, H., Kinoshita, N., Kishida, K. (2018), Coupled THMC modeling by considering damage theory for predicting permeability change in fractured rocks, Proc. 52nd US Symp. on Rock Mech./Geomechs, Seattle, WA, June, pp. ARMA2018-1077.
7. Bond, A.E., Chittenden, N., Fedors, R., Lang, P., McDermott, C., Neretnieks, I., Pan, P.Z., Sembera, J., Brusky, I., Wanatabe, N., Lu, R., Yasuhara, H. (2018), Coupled THMC modelling of single fractures in novaculite and granite, Proc. 2nd International Discrete Fracture Network Engineering Conference, Seattle, WA, June, pp. DENE18-343.
8. Heriansyah Putra, Hideaki Yasuhara, and Naoki Kinoshita (2018), Sustainability of Enzyme-Mediated Calcite Precipitation Method as an Environmental-Friendly Soil Improvement Technique, Proc. The 2018 World Congress on Advances in Civil and Environmental, Materials Research (ASEM18), Incheon, Korea, August 27-31, pp. W4B.2.GE2181\_4604F1.
9. Chenlu Song, Takao Yano, Shinichiro Nakashima, Hideaki Yasuhara and Kishida Kiyoshi (2018), Estimation on Permeability of Granite Single Fracture with Cyclic Loading and Unloading Processes Under Various Thermal Conditions, Proc. 10th Asian Rock Mechanics Symposium (2018 ARMS10), Singapore, October 29-November 03, 2018, pp. ARMS10\_325.

10. Hideaki Yasuhara (2018), Thermal-hydraulic-mechanical-chemical Couplings that Define the Evolution of Flow and Transport Behavior in Fractured Rocks, Proc. 10th Asian Rock Mechanics Symposium (2018 ARMS10), Singapore, October 29-November 03, 2018, pp. ARMS10\_616.
11. H.Yasuhara, S.Ogata, N.Kinoshita, K.Kishida (2018), Coupled THMC modelling by considering damage theory and pressure dissolution for predicting permeability change in fractured rocks, Proc. International Conference on Coupled Processes in Fractured Geological Media: Observation, Modeling, and Application, November 12-14, Wuhan, China, pp. Session 1-7-2.
12. Chenlu Song, Shinichiro Nakashima, Hideaki Yasuhara and Kiyoshi Kishida (2018), Permeability variation of granite single fracture in considering influence of temperature and stress confining period, Proc. The Thirty-first KKHTCNN Symposium on Civil Engineering, November 22-24, 2018, Kyoto, Japan, pp. KU-21.
13. Kosuke Matsumoto, Hideaki Yasuhara, Takao Yano and Kiyoshi Kishida (2018), Evaluation on the healing of single rock fracture with consideration of the critical state during slide-hold-slide process, Proc. The Thirty-first KKHTCNN Symposium on Civil Engineering, November 22-24, 2018, Kyoto, Japan, pp. KU-22.
14. Sho Ogata, Hideaki Yasuhara and Kiyoshi Kishida (2018), Multi-physics modeling by incorporating damage theory for evaluating rock permeability change, Proc. The Thirty-first KKHTCNN Symposium on Civil Engineering, November 22-24, 2018, Kyoto, Japan, pp. KU-23.

### 【全 邦釘】

社会貢献活動 :

1. 2018年5月9日 : 地域実装が拓くインフラメンテナンスの未来 : SIP インフラ 最終年度を迎えてーこれからの姿を明確にするためにー : 国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) : 東京大学 : 200名
2. 2018年5月25日 : インフラ維持管理の新技術開発と地域への実装 : 防災情報研究センター平成29年度活動報告会 : 愛媛大学防災情報研究センター : 愛媛大学 : 60名
3. 2018年6月6日 : AI の構造工学、維持管理への展開 : 首都高速道路株式会社・一般財団法人首都高速道路技術センター 技術講演会・技術展示会 : 一般財団法人首都高速道路技術センター : 有楽町朝日スクエア : 800名
4. 2018年6月22日 : 新技術の活用及びBCPの運用による業務変革 : 平成30年度 愛亀グループ安全衛生大会 : ウェルピア伊予 : 300名
5. 2018年7月19日 : 地域実装が拓くインフラメンテナンスの将来 : SIP インフラ第10回社会実装促進会議 : 東京大学 : 200名
6. 2018年7月19日 : SIP 技術による四万十川・岩間沈下橋の点検・診断・維持管理 : SIP インフラ第10回社会実装促進会議 : ベルサール飯田橋ファースト : 300名

7. 2018年7月19日:SIPインフラ地方実装チームパネルディスカッション:SIPインフラ第10回社会実装促進会議:ベルサール飯田橋ファースト:300名
8. 2018年9月28日:AIの進化が拓くインフラメンテナンスの未来:設立10周年記念CAESAR講演会:国立研究開発法人土木研究所:一橋講堂:500名
9. 2018年10月17日:長寿命化に向けた診断・劣化予測について:「鋼構造物の長寿命化技術」に関する講習会:土木学会:大阪市立大学文化交流センター:100名
10. 2018年10月23日:AIを活用したインフラ維持管理支援について:株式会社四電技術コンサルタント技術発表会:120名
11. 2018年11月8日:人工知能技術の現在と非破壊検査への適用:第27回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム:公益社団法人プレストレストコンクリート工学会:愛媛県県民文化会館:300名
12. 2018年11月29日:防災分野へのAIの適用について 概論と展望:気象災害、土砂災害軽減のためのAI活用に関するセミナー:国立研究開発法人防災科学技術研究所:防災科学技術研究所東京会議室:70名
13. 2018年12月20日:構造工学、維持管理へのAI活用の最先端:株式会社ニュージェック技術発表会:50名
14. 2019年1月24日:パネルディスカッション「2019年以降のSIPインフラ地域実装チームの活動」:5年間に渡るSIPインフラの活動から見えてきたインフラ維持管理・更新・マネジメントの未来ー子供たちの未来を支える社会インフラのためにー:国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST):東京大学:300名
15. 2019年1月30日:土木工学へのAI技術の活用と将来像:第54回センサ&アクチュエータ技術シンポジウム「人工知能とセンサ応用(第2回)」:次世代センサ協議会:中央大学駿河台記念館:100名
16. 2019年2月22日:人工知能(AI)を用いた路面画像解析:第96回アスファルトゼミナール:一般社団法人 日本アスファルト協会:銀座ブロッサム(中央会館):300名
17. 2019年2月28日:AIの構造工学、維持管理への展開:西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社 技術講演会:80名 2018年5月9日:地域実装が拓くインフラメンテナンスの未来:SIPインフラ 最終年度を迎えてーこれらの姿を明確にするためにー:国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST):東京大学:200名
18. 構造工学委員会:構造工学でのAI活用に関する研究小委員会:委員長:土木学会
19. 構造工学委員会:メンテナンス技術者のための教本開発小委員会:委員:土木学会
20. 四国におけるインフラ維持管理新技術研究委員会:委員長:JCI四国支部
21. 路面性状を簡易に把握可能な新技術評価のための舗装WG:委員:四国地方整備局
22. 複合構造委員会:複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会:幹事:土木学会
23. 四国地域橋梁管理委員会:委員:四国地方整備局
24. 四国建設業BCP等審査会:委員:四国地方整備局
25. えひめ建設業BCP等審査会:委員:愛媛県

26. 愛媛県建設工事総合評価：審査委員：愛媛県
27. 応用力学委員会：地区幹事：土木学会
28. 鋼構造委員会 構造物の長寿命化技術に関する検討小委員会：幹事・GW長：土木学会 2018年5月25日：インフラ維持管理の新技術開発と地域への実装：防災情報研究センター平成29年度活動報告会：愛媛大学防災情報研究センター：愛媛大学：60名
29. 構造工学委員会：構造工学でのAI活用に関する研究小委員会：委員長：土木学会
30. 構造工学委員会：メンテナンス技術者のための教本開発小委員会：委員：土木学会
31. 四国におけるインフラ維持管理新技術研究委員会：委員長：JCI四国支部
32. 路面性状を簡易に把握可能な新技術評価のための舗装WG：委員：四国地方整備局
33. 複合構造委員会：複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会：幹事：土木学会
34. 四国地域橋梁管理委員会：委員：四国地方整備局
35. 四国建設業BCP等審査会：委員：四国地方整備局
36. えひめ建設業BCP等審査会：委員：愛媛県
37. 愛媛県建設工事総合評価：審査委員：愛媛県
38. 応用力学委員会：地区幹事：土木学会
39. 鋼構造委員会 構造物の長寿命化技術に関する検討小委員会：幹事・GW長：土木学会

論文・研究発表：

1. 森脇 亮, 今村 実, 全 邦釤, 藤森 祥文深層学習を用いた風速の短時間予測の試み：土木学会：土木学会論文集B1：Vol.74, No.4, pp.I\_229-I\_234 : 2018
2. Cindy Novaria Nada Karina, Ali Awaludin, Bambang Suhendro, Pang-jo Chun : COLLAPSE SIMULATION OF AMMU HAWU TRADITIONAL TIMBER HOUSE IN NUSA TENGGARA TIMUR, INDONESIA : International Journal of Technology : Vol.3, pp.513-525 : 2018
3. 林 詳悟, 山本 達哉, 全 邦釤, 林 和彦 : トンネル覆工コンクリートのひび割れ性状に着目したはく落危険性評価に関する基礎的検討 : コンクリート工学年次論文集 : Vol.40, No.1, pp.1791-1796 : 2018
4. 林 詳悟, 山本 達哉, 全 邦釤, 林 和彦 : 可視画像と形状計測を用いたトンネル覆工コンクリートのはく落危険領域のスクリーニング技術の提案 : 第6回コンクリート構造物の非破壊検査シンポジウム論文集 : pp.33-42 : 2018
5. Ji Dang, Ashish Shrestha, Xin Wang, Shogo Matsunaga, Pang-jo Chun, and Shingo Asamoto : LOW COST BRIDGE SEISMIC MONITORING APPLYING USED SMART PHONES AND CLOUD SERVER : Proceedings of Eleventh U.S. National Conference on Earthquake Engineering : 1124 : 2018
6. 岡崎 百合子, 岡崎 慎一郎, 全 邦釤, 浅本 晋吾 : データ駆動型アプローチによるコンクリート橋梁のひび割れ発生・進展の回帰モデルの構築および要因分析 : コンクリート工学年次論文集 : Vol.40, No.2, pp.1381-1386 : 2018
7. 山本 浩司, 森脇 亮, 全 邦釤, 吉井 稔雄, 森 伸一郎 : 四国地域における社会基盤メンテナントエキスパートの養成 : 土木学会 : 土木学会論文集F4 : Vol.74, No.4, pp.I\_85-I\_94 : 2018

8. 大窪 和明, 全 邦釤: 橋梁間の代替構造把握のための橋梁連関表と代替重要度の提案: 土木学会: 土木学会論文集 F4 : Vol.74,No.4,pp.I\_119-I\_129 : 2018
9. 岡崎 百合子, 岡崎 慎一郎, 全 邦釤, 浅本 晋吾, 大窪 和明: データ駆動型アプローチによる四国内コンクリート橋梁のひびわれ回帰モデルの構築: 土木学会: 土木学会論文集 F4 : Vol.74,No.4,pp.I\_107-I\_118 : 2018
10. 田畠 佑, 党 紀, 春田 大二郎, Ashish SHRESTHA, 松永 昭吾, 全 邦釤: UAV撮影と深層学習を用いた橋梁損傷の自動検知に関する検証: 土木学会: 土木学会論文集 F4 : Vol.74,No.4,pp.I\_62-I\_74 : 2018
11. 大窪 和明, 全 邦釤, 橋爪 謙治, 藤田 尚: 道路舗装の劣化速度に関する探索的空間データ分析: 土木学会: 土木学会論文集 E1 : Vol.74,No.3,pp.I\_95-I\_103 : 2018
12. 全 邦釤, 佐久間 啓藏, 大窪 和明: 引張を受ける腐食鋼部材のディープラーニングによる有効板厚評価と有限要素モデリング: 土木学会: 土木学会論文集 A2 : Vol.74,No.2,pp.I\_535-I\_541 : 2018
13. Koki Hoshide, Mitao Ohga, Pang-jo Chun, Tsunemi Shigematsu, and Sinichi Kawamura : Strength of Thin-Walled Lipped Channel Section Columns with Shell-Shaped Curved Grooves : Open Journal of Civil Engineering : Vol.8,pp.508-523 : 2018 山本浩司, 森脇亮, 吉井稔雄, 矢田部龍一, 全邦釤, 森伸一郎: 地域防災における四国メンテナンスエキスパート (ME) 養成の意義: 21世紀の南海地震と防災 (第 12 卷) : pp.65-72, 2018.1

### 【大窪 和明】

社会貢献活動 :

1. 2018年 6月 29日 Sustainable Construction, Seminar on Sustainable Construction,Cambodian Mekong University, Phnom Penh, Cambodia, 70 名程度
2. 2019年 1月 28日 講評「SDGsについて」, 宮城県白石高等学校 課題研究発表会, 宮城県白石市, 120 名程度
3. Assistant Editor for Asian Transport Studies: Eastern Asia Society for Transportation Studies
4. 土木計画学研究委員会, 都市間旅客交通研究小委員会 : 委員兼幹事
5. 土木計画学研究委員会, インフラ・ファイナンス研究小委員会 : 委員
6. Regional Organizing Committee, International Symposium of Transport Simulation International Workshop on Data Collection and its Standardisation 2018

論文・研究発表 : .

1. 伊坂早織, 大窪和明, 災害時における緊急支援物資の最適輸送計画モデルの提案と適用, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.75, No.5, pp.I\_259-I\_268, 2018
2. 大窪和明, 全邦釤, 矢ヶ崎美香, 廃 PET ボトルの落札額データを用いた市町村とリサイクル事業者の組合せ最適化問題, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.75, No.5, pp.I\_293-I\_301, 2018
3. 大窪和明, 全邦釤, 橋爪謙治, 藤田尚, 道路舗装の劣化速度に関する探索的空間データ分析, 土木学会論文集 E(舗装工学), Vol.74, No.3,pp.95-103, 2018,

4. 大窪和明, 全邦釘, 橋梁間の代替構造把握のための橋梁連関表と代替重要度の提案, 土木学会論文集 F(建設マネジメント), Vol.74, No.2, pp.I\_119-I129, 2018.
5. 岡崎百合子, 岡崎慎一郎, 全邦釘, 浅本晋吾, 大窪和明, データ駆動型アプローチによる四国内コンクリート橋梁のひびわれ回帰モデルの構築, 土木学会論文集 F4(建設マネジメント), Vol.74, N0.2, 2018.
6. 大窪和明, 全邦釘, 検出力を考慮した最適分類木の提案と適用, 土木計画学研究・講演集, Vol.57, CD-ROM, 2018
7. 大窪和明, 全邦釘, 三島和紀, 混合マルコフ劣化ハザードモデルを用いた最適点検間隔の検討, 土木計画学研究・講演集, Vol.58, CD-ROM, 2018 全 邦釘, 鳴本 ゆり, 大窪 和明, 三輪 知寛, 大賀 水田生: ディープラーニングおよび Random Forest によるコンクリートのひび割れ自動検出手法, 土木学会論文集 F3, 73, (2), 2017 年
8. 大窪和明, 全邦釘, 検出力を考慮した最適分類木の提案と適用, 第 57 回土木計画学研究発表会, 東京工業大学, 2018 年 6 月 9 日-10 日
9. 大窪和明, 全邦釘, 三島和紀, 混合マルコフ劣化ハザードモデルを用いた最適点検間隔の検討, 第 58 回土木計画学研究発表会, 大分大学, 2018 年 11 月 23 日-25 日
10. 大窪和明, 全邦釘, 橋梁間の代替構造把握のための橋梁連関表と代替重要度の提案, 第 36 回建設マネジメント研究発表・講演会, 土木学会, 2018 年 12 月 3 日
11. 大窪和明, 全邦釘, 橋爪謙治, 藤田尚, 道路舗装の劣化速度に関する探索的空間データ分析, 第 23 回舗装工学講演会, 土木学会, 2018 年 12 月 6 日-7 日
12. Kazuaki Okubo, Pang-jo, Chun, Optimal classification tree for soundness evaluation with asymmetric misclassification costs, The Infrastructure planning and management association -the 9th forum-, Bangkok Thailand, August 21-23, 2018.
13. Kazuaki Okubo, Pang-jo, Chun, A Cell-based Transportation Planning Model of Humanitarian Logistics and its Application, INFORMS annual meeting 2018, Arizona United States, November 4-7, 2018.

### 【中前 茂之】

社会貢献活動 :

1. 平成 30 年 11 月 6 日 : 平成 30 年北海道胆振東部地震に伴う大規模停電災害を受けた住民の防災意識の変化に関する考察 : 第 34 回寒地技術シンポジウム : 一般社団法人北海道開発技術センター : 札幌コンベンションセンター : 約 200 名
2. 平成 30 年 11 月 12 日 : 平成 30 年北海道胆振東部地震に伴う大規模停電災害を受けた住民の防災意識の変化に関する考察 : 「第 3 回愛媛大学災害調査団報告会」 : 総合情報メディアセンター 1 F メディアホール

論文・研究発表 :

1. 「平成 30 年北海道胆振東部地震の教訓を踏まえた冬期災害への備え」 : 公益社団法人雪センター : 機関誌ゆき 29 卷 3 号 (通算 113 号) 、 pp30-35 : 2018 年・12 月

## 【山本 浩司】

社会貢献活動：

1. 2019.1.18：西日本豪雨災害における愛媛地域の浸水と土砂災害：2018年度シンポジウム西日本豪雨災害の実態を知る：立命館大学防災フロンティア研究センター：京都・メルパルク京都：200名

論文・研究発表：

1. 全邦釤，森脇亮，矢田部龍一，山本浩司，薬師寺隆彦，新宮圭一，羽藤英二，萩原拓也，井本佐保里：宇和海沿岸地域の南海トラフ地震事前復興デザイン共同研究の取り組み，第13回南海地震四国地域学術シンポジウム，土木学会四国支部，pp.41-48，2018.
2. 新宮圭一，山本浩司，薬師寺隆彦，全邦釤，森脇亮：宇和海沿岸地域の事前復興デザインのための情報プラットフォームの構築，第13回南海地震四国地域学術シンポジウム，土木学会四国支部，pp.49-56，2018.
3. 薬師寺隆彦，山本浩司，新宮圭一，全邦釤，森脇亮：東日本大震災の復興における地域特性と宇和海沿岸地域の課題について，第13回南海地震四国地域学術シンポジウム，土木学会四国支部，pp.57-66，2018.
4. 森脇 亮，全 邦釤，山本浩司，薬師寺隆彦，新宮圭一，羽藤英二，井本佐保里，萩原拓也：宇和海沿岸地域の南海トラフ地震事前復興デザイン共同研究の取り組み，東京大学 復興デザイン研究体年報，2019.
5. 中屋敷洋介，兵頭伸幸，向井光広，今井美文，西森幸弘，江原博司，野上武志，森伸一郎：KJ法を用いたインフラメンテナンスの課題分析，平成30年度土木学会四国支部技術研究発表会，2018.
6. 山本浩司，森伸一郎，森脇 亮，吉井稔雄，全 邦釤：社会基盤 ME 養成のためのカリキュラム構成とワークショップ，平成30年度土木学会四国支部技術研究発表会，2018.
7. 山本浩司，森脇 亮，全 邦釤，吉井稔雄，森伸一郎：四国地域における社会基盤メンテナンスエキスパートの養成，土木学会論文集F4（建設マネジメント）Vol.74, No.2, I\_85-I\_94, 2018.
8. 山本浩司，森脇 亮，全 邦釤：愛媛地域におけるインフラメンテナンスを取り巻く諸環境について，平成30年度地盤工学会四国支部技術研究発表会，2018.
9. 山本浩司：宇和海沿岸地域の南海トラフ地震事前復興デザイン共同研究の取り組み：第13回南海地震四国地域学術シンポジウム：高松：2018.12.17
10. 山本浩司：社会基盤 ME 養成のためのカリキュラム構成とワークショップ：平成30年度土木学会四国支部技術研究発表会：徳島：2018.5.19
11. 山本浩司：四国地域における社会基盤メンテナンスエキスパートの養成：土木学会第36回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会：東京：2018.12.3
12. 山本浩司：愛媛地域におけるインフラメンテナンスを取り巻く諸環境について：平成30年度地盤工学会四国支部技術研究発表会：高松：2018.11.9

## 5. 規程等

### 5.1 愛媛大学防災情報研究センター規則

平成18年4月1日  
規則第 64号

#### (趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

#### (目的)

第2条 センターは、自然科学と防災技術の融合により自然災害の実態を解明し、防災・減災のための新たな学際分野を創出し、もって地域の人材育成を含めた地域防災の拠点としてアジア及び地域社会に貢献することを目的とする。

#### (研究部門等)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 災害救急医療・ケア研究部門
- (2) 地域防災システム研究部門
- (3) アジア・地域防災情報ネットワーク部門
- (4) アーバンデザイン研究部門
- (5) 防災・橋梁メンテナンス技術研究部門
- (6) インフラ空間情報基盤研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、センターに地域サテライトを置くことができる。

#### (組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 寄附研究部門教員
- (5) 兼任教員
- (6) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

2 第2条の目的を達成するため、必要に応じて特定領域の学識を有する専任教員を置くことができる。

#### (管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学社会連携推進機構社会連携推進会議（以下「社会連携推進会議」という。）において審議する。

#### (運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

#### (緊急対策委員会)

第7条 センターに、緊急の防災対策を検討するために緊急対策委員会を置くことができる。

(センター長)

第8条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第9条 副センター長候補者は、本学の専任教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前項の規定にかかわらず、副センター長の任期の末日は、センター長の任期の末日を超えることができない。

(部門長)

第10条 部門長は、当該部門の寄附研究部門教員又は兼任教員のうちから、センター長が委嘱する。

2 部門長の委嘱期間は、センター長が定める。ただし、委嘱期間の末日は、当該部門長を委嘱するセンター長の任期の末日を超えないものとする。

(寄附研究部門教員)

第11条 寄附研究部門教員は、社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

(兼任教員)

第12条 兼任教員は、本学の専任教員のうちからセンター長の推薦により、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第13条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長から指示された具体的な事項を行う。

3 部門長は、当該部門の業務を処理する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

(協力教員)

第14条 センターに、協力教員を置くことができる。

2 協力教員は、センター長があらかじめ定めた期間、センターの活動に参加することができる。

3 協力教員は、本学の専任教員のうちから、センター長が委嘱する。

(客員教授等)

第15条 センターに、客員教授等を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、国立大学法人愛媛大学客員教授等称号付与規程の定めるところによる。

(客員研究員)

第16条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

(事務)

第17条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第18条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成22年10月14日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

#### 附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成26年6月11日から施行する。

#### 附 則

1 この規則は、平成28年8月1日から施行する。

2 この規則施行後、最初に任命される副センター長の任期は、第9条第2項の規定にかかわらず、平成30年3月31日までとする。

#### 附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

## 5.2 愛媛大学防災情報研究センター運営委員会規程

〔平成18年4月1日  
規則第 65号〕

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 社会連携支援部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理人を含む。以下同じ）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

### 5.3 愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程

平成 18 年 11 月 10 日  
社会連携推進機構管理委員会

#### (趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）における外部評価（以下「評価」という。）の実施に関する基本的事項を定めるものとする。

#### (目的)

第2条 評価は、愛媛大学以外の機関等から申込のあった共同研究及び受託研究が、愛媛大学において受け入れる研究としてふさわしいものであるかについて客観的な立場で検証し、その評価及び改善への助言等を行うことにより、共同研究及び受託研究の業務の適正化を図り、もって、センターの円滑な運営に資するものとする。

#### (評価審査)

第3条 評価に係る審査は、法令、学内諸規則及び社会良識に照らして厳正中立に行わなければならない。

2 評価審査の結果には、共同研究及び受託研究を実施する上での問題点の有無等について、その具体的な判断理由を明示するものとする。

#### (審査機関)

第4条 前条の審査を行うために、センターに愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を置く。

2 外部評価委員会に関する事項は、別に定める。

#### (審査の時期)

第5条 審査は、原則として、年度ごとの定期審査とする。

2 外部評価委員会への審査の要請は、センター長が行う。

#### (審査結果の効力)

第6条 センター長は、外部評価委員会の定期審査による評価及び改善への助言等を十分に尊重し、共同研究及び受託研究の実施にあらなければならない。

#### (事務)

第7条 センターの外部評価に関する事務は、社会連携支援部社会連携課が所掌する。

#### 附 則

この規程は、平成 18 年 11 月 10 日から施行する。

#### 附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

## 5.4 愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要項

平成 18 年 11 月 10 日  
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程第4条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 共同研究及び受託研究のテーマ又は内容が、学術的又は社会貢献としての価値を損なうものでないか。
- (2) 共同研究又は受託研究を実施する者が、社会規範を逸脱したと思われる行為を行っていないか。
- (3) 前各号のほか、愛媛大学（以下「本学」という。）が実施するにふさわしくない事情が認められないか。

(組織)

第3条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる本学外の委員をもって組織する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の学術分野に関連のある有識者 2人
  - (2) 民間機関の有識者 2人
  - (3) その他社会連携推進機構長が必要と認めた者
- 2 前項第2号の委員は、同一の機関から選出することができない。
- 3 第1項の委員は、社会連携推進機構長が推薦し、学長が任命する。
- 4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときは直ちにこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 外部評価委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選とする。

- 2 委員長は、センター長の要請に基づき外部評価委員会を開催し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聞くことができる。

(審査結果の報告)

第7条 委員長は、外部評価委員会における評価の審査結果を、速やかにセンター長に報告しなければならない。

(事務)

第8条 外部評価委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、外部評価委員会の審査に関し必要な事項は、外部評価委員会が定める。

### 附 則

- 1 この要項は、平成18年11月10日から施行する。
- 2 この要項施行後、最初に任命される第3条第1項各号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

